

箱崎遺跡 44

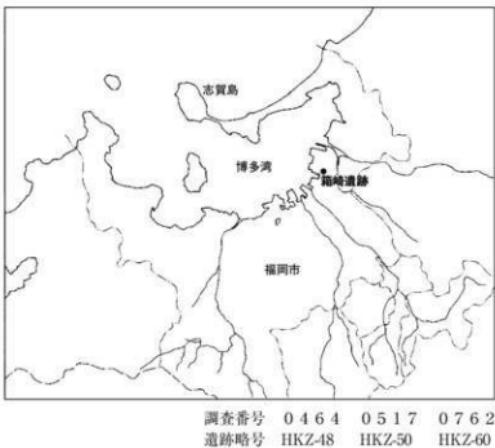
—箱崎遺跡第 50・60 次調査報告—

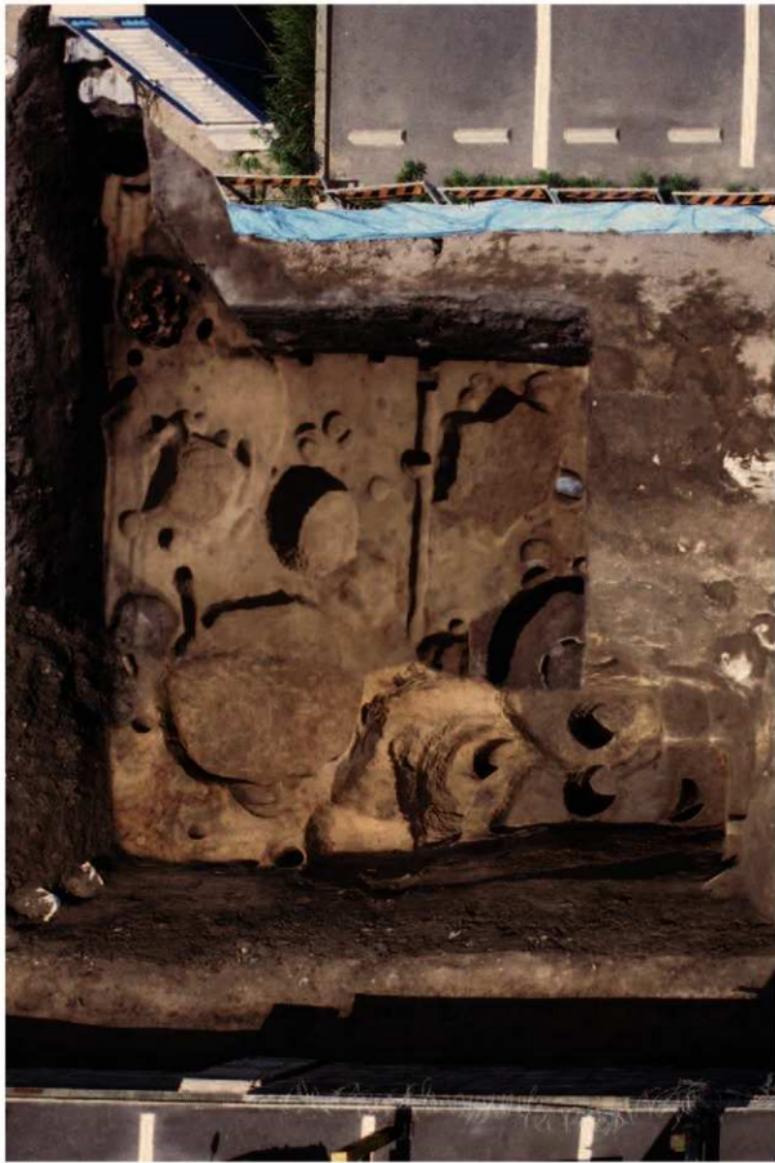
福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1163 集

箱崎遺跡 44

—箱崎遺跡第 50・60 次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1163 集





第50次調査区全景（北から）



第60次調査区全景（北西から）

序

いにしえの昔から大陸文化の窓口として栄えた福岡市は、21世紀の今日も更なる発展を目指してさかんに都市開発が推し進められています。それに伴つてやむなく失われる埋蔵文化財については、将来にわたって記録を保存するための発掘調査をおこなっています。

本書は、馬出5丁目において実施した箱崎遺跡第50次および第60次調査の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、中世の集落遺構と近世の墓地遺構が発見されました。中世の井戸からは中国や高麗から輸入された磁器類が出土し、筥崎宮の門前町として栄えた箱崎遺跡の人々の生活を考える上で貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が市民のみなさんに広く活用され、埋蔵文化財保護に対するご理解の一助になるとともに、学術研究に活用していただければ幸いです。

なお、発掘調査から整理報告までの間には、多くの方々のご指導とご協力をいただきました。記して心から感謝の意を表する次第であります。

平成24年3月16日

福岡市教育委員会
教育長 酒井 龍彦

れいげん

- 本書は、福岡市教育委員会が福岡市博多区馬出5丁目地内における専用住宅（第48・50次調査）の建設と墓地の改葬（第60次調査）に先だって緊急に発掘調査した箱崎遺跡の第50次調査と第60次調査の発掘調査報告書である。
- 本書に使用した方位はすべて磁北方位である。
- 遺構は、井戸跡をSE、掘立柱建物をSB、土壙をSK、ピットをSP、溝をSD、近世墓をSXと記号化して呼称し、調査区毎にすべての遺構を01から通番してNoを付した。
- 本書に掲載した遺構実測は小林義彦が、遺物の実測は小林と今村ひろ子が作成した。
- 本書に掲載した遺構と遺物の製図は、小林と今村が作成した。
- 本書に掲載した遺構と遺物の写真は小林が撮影した。第60次調査区の全景写真は、2分割して撮影した2画像をデジタルモザイクで合成して作成した。
- 第60次調査で出土した金属器や銅錢の保存処理は、福岡市埋蔵文化財センターの上角智希が行なった。
- 本書の執筆・編集は小林が行った。
- 本書に係わる遺物と記録類は一括して埋蔵文化財センターに保管している。

調査番号：0517	遺跡略号：HKZ—50	分布地図番号：34—2639
調査地籍：福岡市東区馬出5丁目164番1		
工事面積：195m ²	調査対象面積：85m ²	調査実施面積：69m ²
調査期間：2005年5月12日～6月4日		

調査番号：0762	遺跡略号：HKZ—60	分布地図番号：34—2639
調査地籍：福岡市東区馬出5丁目510番地		
工事面積：906m ²	調査対象面積：906m ²	調査実施面積：630m ²
調査期間：2008年1月21日～3月27日		

本文目次

序	
I.はじめに	1
1.発掘調査にいたるまで	1
2.発掘調査の組織	1
3.立地と歴史的環境	3
II.第50次調査の記録	10
1.調査の概要	10
2.井戸	11
3.土壌	15
4.掘立柱建物	20
5.溝遺構	20
6.その他の遺構と包含層の遺物	20
7.第48次調査の遺物	21
8.小結	22
III.第60次調査の記録	24
1.調査の概要	24
2.溝遺構	25
3.近世墓	26
4.その他の遺構と包含層の遺物	35
5.小結	35

挿図目次

Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
Fig. 2 箱崎遺跡周辺旧地形図 (1/25,000)	4
Fig. 3 箱崎遺跡位置図 (1/7,000)	5
Fig. 4 第50・60次調査区周辺位置図 (1/1,000)	6
Fig. 5 第50次調査区周辺現況図 (1/500)	9
Fig. 6 第50次調査区遺構配置図 (1/100)	10
Fig. 7 7・8・9・10号井戸跡実測図 (1/50)	12
Fig. 8 7・8・9号井戸出土遺物実測図 (1/3)	13
Fig. 9 11号井戸出土遺物実測図 (1/3・1/6)	14
Fig. 10 2号土壤実測図 (1/40)	14
Fig. 11 2号土壤出土遺物実測図 (1/3)	15
Fig. 12 3・13・35号土壤実測図 (1/30)	15
Fig. 13 29号土壤実測図 (1/20)	16
Fig. 14 29号土壤出土遺物実測図 (1/3)	17
Fig. 15 29号土壤出土遺物実測図 2 (1/3)	18
Fig. 16 29号土壤出土遺物実測図 3 (1/3)	19
Fig. 17 29号土壤出土銅錢拓影 (2/3)	19
Fig. 18 35・36・37号土壤出土遺物実測図 (1/3)	19
Fig. 19 14号建物実測図 (1/30)	20
Fig. 20 12・25号溝断面図 (1/20)	20
Fig. 21 包含層出土遺物実測図 (1/3)	21
Fig. 22 第48次調査遺構配置図 (1/200)	22
Fig. 23 第48次調査出土遺物実測図 (1/3・1/6)	22
Fig. 24 第60次調査区周辺現況図 (1/500)	23
Fig. 25 第60次調査区遺構配置図 (1/200)	24
Fig. 26 69号溝実測図 (1/100)	25
Fig. 27 69号溝出土遺物実測図 (1/1・1/3・1/4)	25
Fig. 28 2・5・9号墓実測図 (1/30)	27
Fig. 29 27・31・43・48号墓実測図 (1/30)	28
Fig. 30 49・51・56号墓実測図 (1/30)	29
Fig. 31 58・63・67・85号墓実測図 (1/30)	30
Fig. 32 92・100号墓実測図 (1/30)	31
Fig. 33 2号甕実測図 (1/8)	31

Fig. 34	5・9・27・31・43・48・49号墓出土遺物実測図(1/1・1/3)	32
Fig. 35	51・56・58・63・67号墓出土遺物実測図(1/1・1/3)	33
Fig. 36	85・92・100号墓出土遺物実測図(1/3)	34
Fig. 37	包含層出土遺物実測図(1/4)	34

図版目次

卷頭 1	第50次調査区全景(北から)	
卷頭 2	第60次調査区全景(北西から)	
PL. 1	1) 第50次調査区西側全景(北から)	2) 第50次調査区東側全景(北から)
PL. 2	1) 調査区東壁土層断面(南西から)	2) 2号土壤(東から)
PL. 3	1) 7~10号井戸(東から)	2) 7号井戸(東から)
PL. 4	1) 8・9号井戸(西から)	2) 8・11号井戸(北から)
PL. 5	1) 7・9号井戸井筒断面(南から)	2) 10号井戸(西から)
PL. 6	1) 12号建物(北から)	2) 12号建物(西から)
PL. 7	1) 13号土壤(南東から)	2) 29号土壤(西から)
PL. 8	1) 29号土壤下層遺物出土状況(西から)	2) 29号土壤下層遺物出土状況(北から)
PL. 9	1) 36号土壤(南から)	2) 37号土壤(南から)
PL. 10	出土遺物(縮尺不同)	
PL. 11	1) 第60次調査区南側全景(北西から)	2) 第60次調査区北側全景(北西から)
PL. 12	1) 69号溝(南から)	2) 69号溝(北西から)
PL. 13	1) 1・2号墓(南から) 3) 2号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 1・2号墓断面(南から)
PL. 14	1) 5号墓(南から)	2) 5号墓出土遺物(縮尺不同)
PL. 15	1) 9号墓(東から)	2) 9号墓出土遺物(縮尺不同)
PL. 16	1) 27号墓(南から) 3) 27号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 27号墓遺物出土状況(南から)
PL. 17	1) 31号墓(南から) 3) 31号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 31号墓遺物出土状況(南東から)
PL. 18	1) 43号墓(南から) 3) 43号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 43号墓遺物出土状況(南東から)
PL. 19	1) 48号墓(北から) 3) 48号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 48号墓遺物出土状況(北から)
PL. 20	1) 49号墓(北から) 3) 49号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 49号墓遺物出土状況(東から)
PL. 21	1) 51号墓(東から) 3) 51号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 51号墓遺物出土状況(東から)
PL. 22	1) 56号墓(南から) 3) 56号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 56号墓遺物出土状況(西から)
PL. 23	1) 58号墓(東から) 3) 58号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 58号墓遺物出土状況(北から)
PL. 24	1) 63号墓(北から) 3) 63号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 63号墓遺物出土状況(北から)
PL. 25	1) 67号墓(東から) 3) 67号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 67号墓遺物出土状況(南から)
PL. 26	1) 85号墓(南から)	2) 85号墓出土遺物(縮尺不同)
PL. 27	1) 92号墓(南から) 3) 92号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 92号墓遺物出土状況(北から)
PL. 28	1) 100号墓(北から) 3) 100号墓出土遺物(縮尺不同)	2) 100号墓遺物出土状況(南から)

表 目 次

Tab. 1	箱崎跡遺跡調査一覧表1	7
Tab. 2	箱崎跡遺跡調査一覧表2	8
Tab. 3	近世墓一覧表1	35
Tab. 4	近世墓一覧表2	36
Tab. 5	近世墓一覧表3	37
Tab. 6	近世墓一覧表4	38

I. はじめに

1. 発掘調査にいたるまで

箱崎遺跡は、博多湾に面した海岸砂丘上に立地する砂丘遺跡で、東縁には糟屋平野の西縁を北流する宇美川が多々良川の河口に注ぎ込んでいる。

長きにわたって筥崎宮の門前町として栄えてきた箱崎地区にも開発の波は押し寄せ、JR九州鹿児島線の筥崎連続立体開発事業やそれに伴う筥崎土地区画整理事業、都市計画道路箱崎阿恵線道路整備事業などの進捗によって数多くの発掘調査が実施され、筥崎宮を中心に栄えてきた箱崎地区の歴史が次第に明らかになりつつある。

馬出5丁目地内にも老朽化した家屋の建替えや都市計画道路馬出東浜線の新設工事に伴って数地点で発掘調査が実施されている。ここに報告する第50次調査は、馬出5丁目461番1における小規模共同住宅の建設、第60次調査は、馬出5丁目510番地内における都市計画道路馬出東浜線の新設による共同墓地の移転改修に伴って緊急発掘調査して記録保存を図った2地点の発掘調査記録である。

第50次調査は、平成17（2005）年5月12日から6月4日まで発掘調査した。また、第60次調査は、平成20年（2008）年1月21日より調査に着手し、3月27日に無事終了した。この期間は寒さの厳しい厳寒期で、表土層の除去を除く作業はすべて人力による過酷なものであった。このなかで、多くの成果を挙げえたことは箱崎の近世史を検討する上で貴重なものであった。

なお、発掘調査は、事業の性格上国庫補助事業として実施した。発掘調査にあたっては、関係者諸氏のご協力と発掘調査や整理作業に従事した方々の労苦に改めて感謝いたします。

2. 発掘調査の組織

第50次調査

調査主体	福岡市教育委員会
調査総括	文化財部長 山崎純男（前任）
	埋蔵文化財第1・2課長 山口譲治（前任） 田中寿夫
調査庶務	埋蔵文化財第1課 古賀とも子
調査担当	埋蔵文化財第1・2課 小林義彦
調査・整理作業	石橋陽子 今村ひろ子 大瀬良清子 熊本交神 土斐崎孝子 為房紋子 播磨博子 福田操 山口慶子 萬スミエ

第60次調査

調査主体	福岡市教育委員会
調査総括	文化財部長 山崎純男（前任）
	埋蔵文化財第1・2課長 山口譲治（前任） 田中寿夫
調査庶務	埋蔵文化財第1課 古賀とも子
調査担当	埋蔵文化財第1・2課 小林義彦
調査・整理作業	阿部純子 石橋陽子 伊藤美伸 今村ひろ子 大瀬良清子 坂梨美紀 田端名穂子 知花繁代 塚本よし子 永松弘恵 中村幸子 西田文子 花田則子 演フミコ 播磨博子 福田操 松尾千寿 松下さゆり 光安晶子 森田ちはる 森田祐子 山口慶子



Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

3. 立地と歴史的環境 (Fig. 1 ~ 3)

玄界灘にもむかって開口する博多湾の海岸線には、親潮が志賀島にあたって湾入する左回転流によつて形成された長い海岸砂丘が折がっている。箱崎遺跡は、箱崎砂層と呼称される古砂丘上に立地しており、その南西には砂丘の鞍部や河道によって画された吉塚本町遺跡、吉塚祝町遺跡、堅粕遺跡、吉塚遺跡を経て、中世の国際貿易都市遺跡として著名な博多遺跡群が続いている。

箱崎遺跡は、この箱崎砂層の北端に位置し、西は博多湾、東は多々良川の支流である宇美川によつて画され、博多湾から湾入するこの入り江には筥崎宮の港として栄えた「筥崎ノ津」があった。この箱崎砂丘は、筥崎宮付近の標高3.5mを砂丘頂として南北に長い尾根が続き、西側に緩やかな緩斜面を形成しながら比高を減じて行き、遺跡西縁の100mほど西には、元寇防壁の推定線がある。

箱崎遺跡における人跡の初現は、弥生時代の遺物が散見されることにはじまり、古墳時代には墳丘に葺石を施させた古墳が築かれているが、本格的な発展は、筥崎宮の創建に始まる。筥崎宮は、923(延長1)年に筑前熊本郡大分八幡宮を遷座したことに始まる。1051(永承6)年には、石清水八幡宮の別宮となるが、1140(保延6)年には一時大宰府の府領となっている。この大宰府領時代の1151(仁平1)年には、大宰府検非違使所の官人が箱崎や博多に在住する宋人の大追捕を行っている。「宮寺縁事抄」にはこの事件の詳細な記述があり、箱崎や博多には1,600軒を超す宋人達の家屋があり、私財を没収したことが書かれている。このことは日宋貿易に関わる宋商人達の町、いわゆる宋人街が形成されていたことを裏付けている。しかし、1185(文治1)年には再び石清水八幡宮の別院に戻っている。1274(文永11)年の文永の役、いわゆる元寇の際には筥崎宮が消失したことが伝えられており、門前町「箱崎」も被災したものと考えられる。1276(建治2)年、蒙古の再来に備えて海岸線には薩摩国によって防壁が築かれれる。1323(至治3)年に、元の慶元府(寧波)から博多へむかっていた貿易船が韓國の新安沖で沈没した。この貿易船から「筥崎勘進僧教仙」や「筥崎宮」、「筥崎奉加銭」と記された荷札の木簡が出土しており、筥崎宮が博多と並んで大陸貿易の大拠点であったことが窺える。以降、豊臣秀吉の天下統一に至るまで海上交通や貿易拠点の要衝としてその名は「海東諸国紀」や「筑紫道記」、「宗漢日記」に記されている。

考古学的調査は、1983(昭和58)年の地下鉄2号線の建設に先立つて実施された発掘調査にはじまり、これまでに68地点で発掘調査が実施されている。考古学的初現は、縄文時代晩期末から弥生時代初頭にはじまる。第6・20次調査区では、刻目突帯文土器片や磨製石斧などの遺物が出土している。古墳時代初頭には、第8・20・22・26・30・40次調査区で竪穴住居や土壙、方形周溝墓が検出されている。これ等の遺構から多数の飯蛸壺が出土しており、漁労集団の生活痕が窺える。また、第40次調査区では葺石で覆われた5世紀代の円墳が築かれている。これら古墳時代の遺構は、砂丘尾根から東側の緩斜面上に占地している。その後、10世紀まで人跡は途絶えるが、第2・22・26・30・40・54次調査区で、筥崎宮創建時の10世紀代の遺構が検出されている。11世紀代になると遺構の範囲が前世紀よりも拡大するが、その占地は砂丘の尾根から東側の緩斜面上に限られている。井戸などの生活遺構が濃密な拡がりをみせ、多種多様な輸入陶磁器が大量に出土する。「筥崎ノ津」と云われる港湾施設が湾入する宇美川の河口に在ったとされており、中世港湾都市形成のはじまりと云えよう。12世紀中頃からは、都市の拡大に伴つて海側の西側緩斜面上の利用も始まり、12世紀後半には広範囲に拡がる。13世紀には砂丘全域に亘つて集落域が展開し、西側緩斜面が生活空間として積極的に活用されている。この西側緩斜面上北側の標高2.5~3mに沿つた第5・11・21・24・29・31・32・34・35・38・44・51次調査区で検出された13世紀後半の焼土整地層は、文永の役いわゆる「蒙古襲来」の焼き討ちによる被災跡と推考され、筥崎宮と併せて市街一帯が消失したことを示すものである。14



Fig.2 箱崎道跡周辺旧地形図 (1/25,000)

～15世紀には、第1・2・3次調査区で定型化した集落域が形成されはじめ、宮崎宮の門前町としての繁栄を究めたようである。その後、1587(天正15)年には九州を平定した豊臣秀吉が、薩摩島津氏攻略の帰途に宮崎宮を本陣として箱崎浜で茶会を催し、被災した博多の町割りいわゆる太閤町割りを企図している。

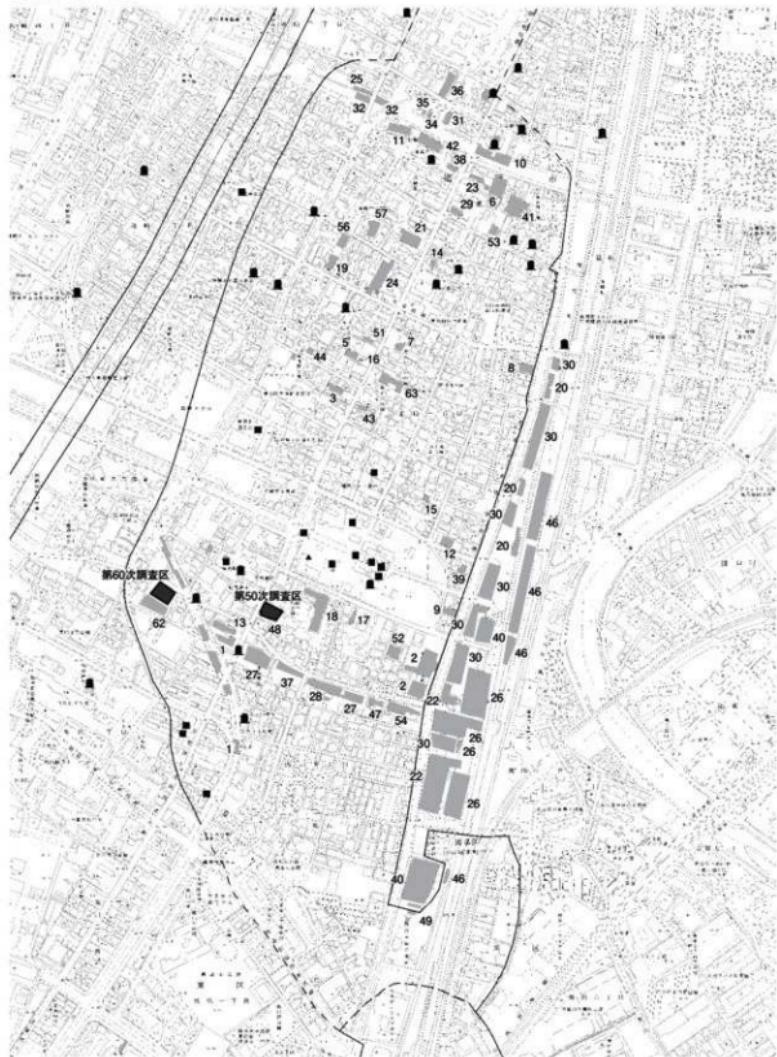


Fig.3 箱崎遺跡位置図 (1/7,000)

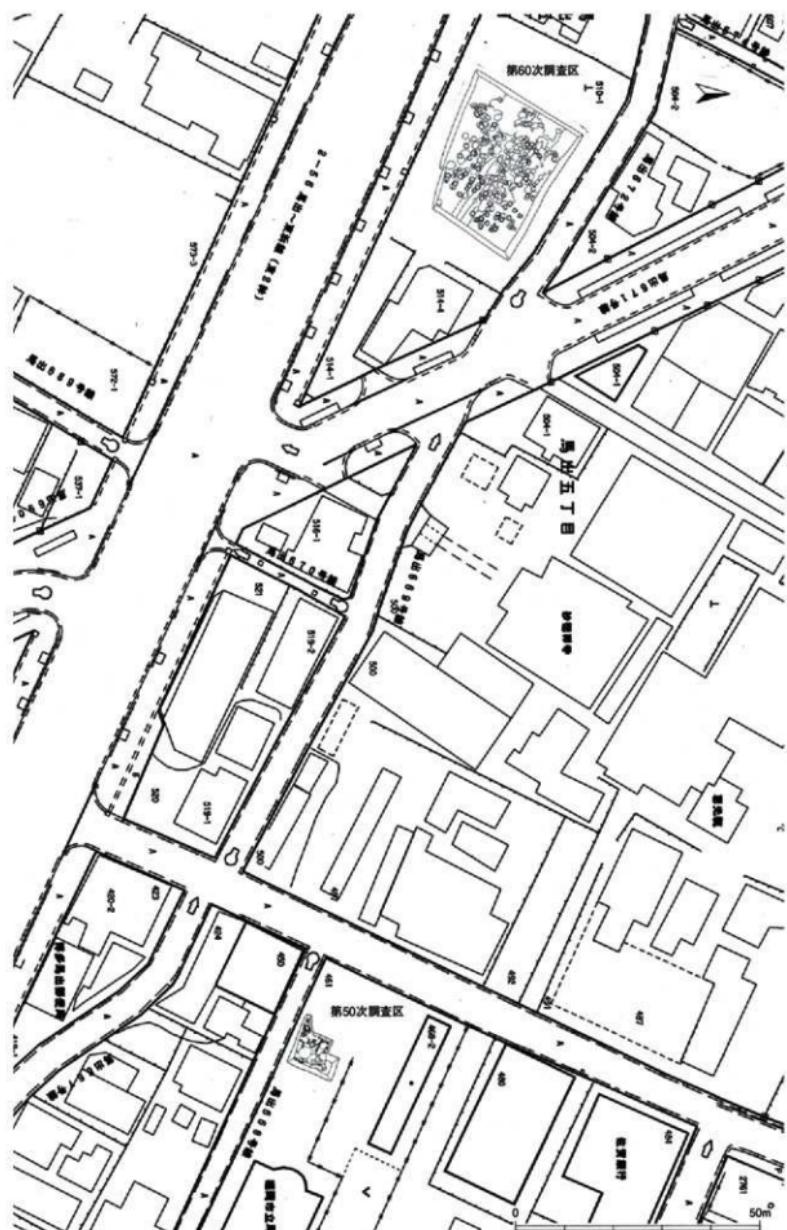


Fig.4 第50・60次調査区周辺位置図 (1/1,000)

次 数	調査 番号	所在地	調査期間	調査 面積 (m ²)	古 墳	報告書	特記する遺物内容
1	7212	箱崎字大坪	19721201 ~ 19730630	1,920.0		32	
2	8342	馬出3丁目・5丁目	19830704 ~ 19831218	1,960.0		193	土師器・陶磁器・瓦・鉄刀子・鉄製紡錘車
2	8663					4-1038	
3	8967	箱崎 2761	19900109 ~ 19900221	156.0		262	土師器・陶磁器・土鈴・土製紡錘車・石鍋・土鍤
4	8975	箱崎 2761	19890705 ~ 19890705			年報4	瓦絆
5	9125	箱崎1丁目 27-25	19910909 ~ 19911031	250.0		273	土師器・陶磁器・瓦・石鍋・石鍤
6	9445	箱崎3丁目 2437-1・4	19941020 ~ 19950131	430.5		459	土師器・陶磁器・石鍋
7	9448	箱崎1丁目 2711	19941115 ~ 19941227	85.0		459	土師器・陶磁器・土鍤・銅錢・人骨
8	9643	箱崎1丁目 2549-1	19961001 ~ 19961114	225.0		591	土師器・陶磁器・陶質土器・瓦・土鍤・飯蛸壺・ガラス玉
9	9644	箱崎1丁目 1935-1	19961002 ~ 19961029	191.0		550	土師器・陶磁器・瓦・銅錢・石鍋
10	9646	箱崎3丁目地内	19961111 ~ 19970331	1,020.0		551	土師器・須恵器・陶磁器・銅錢・土鍤・石鍤・鑄造関連遺物
11	9712	箱崎3丁目 3266-1・3264-3	19970430 ~ 19970627	385.0		592	土師器・陶磁器・瓦・銅錢・石鍋・土鍤・飯蛸壺
12	9735	箱崎1丁目 2608-1,3	19970819 ~ 19970922	155.0		950	土師器・陶磁器・滑石製品
13	9750	馬出5丁目 520,521	19971027 ~ 19971202	297.0		592	土師器・陶磁器・瓦・石鍋
14	9802	箱崎1丁目	19980402 ~ 19980423	36.0		625	土師器・陶磁器・銅錢・土製騎馬人物像
15	9816	箱崎1丁目	19980527 ~ 19980605	36.3		810	土師器・陶磁器・飯蛸壺
16	9853	箱崎1丁目	19990118 ~ 19990129	56.0		703	土師器・陶磁器・瓦・銅錢・石鍋
17	9864	箱崎1丁目	19990308 ~ 19990331	40.0		704	土師器・陶磁器・瓦・板碑・一字一石絆
18	9921	馬出5丁目 470他	19990614 ~ 19990928	920.0		664	土師器・陶磁器・瓦・銅錢・墨書き原石・茶白・青銅製杓子
19	9930	箱崎1丁目 2940-1	19990729 ~ 19990827	160.0		664	土師器・陶磁器・鉄釘・鍛治萍・土鍤・石鍤・石鍋
20	9959	箱崎地区	19991213 ~ 20000331	641.0		767	土師器・陶磁器・瓦・銅錢
21	9978	箱崎1丁目 2480	20000329 ~ 20000626	421.0		705	土師器・陶磁器・銅鏡・銅錢・ガラス小玉・槍釘・人骨
22	0022	箱崎1丁目地内	20000724 ~ 20010418	2,976.0		811-852	土師器・陶磁器・銅鏡・和鉄
23	0041	箱崎3丁目 2404番地	20000922 ~ 20011102	96.0		704	土師器・陶磁器・瓦・板碑
24	0047	箱崎1丁目 2511番1外4筆	20001023 ~ 20041102	475.0		768	土師器・陶磁器
25	0104	箱崎3丁目地内	20010416 ~ 20010426	87.0		896	土師器・陶磁器・銅錢・石鍋
26	0108	箱崎1丁目・馬出5丁目	20010401 ~ 20020331	5,255.0		815-853	土師器・陶磁器・瓦・銅錢・銅鏡・鉄製品・人骨
27	0113	馬出	20010607 ~ 20020131	1,560.0		812	土師器・陶磁器・瓦・石製品
28	0118	馬出5丁目 24-8	20010702 ~ 20010712	41.3		1127	土師器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品
29	0202	箱崎3丁目 2398・2440	20020401 ~ 20020426	80.0		813	土師器・陶磁器・銅錢・石鍋・石鍤
30	0210	箱崎1丁目・馬出5丁目	20020409 ~ 20030513	5,060.0		914-948	弦生土器・土師器・陶磁器・瓦・土製品・滑石製品
31	0214	箱崎3丁目 3358-1の一部	20020509 ~ 20020614	80.0		813	土師器・陶磁器
32	0224	箱崎3丁目地内?	20020422 ~ 20020920			896	土師器・陶磁器・石製品・鉄製品
33	0236	馬出5丁目 502・503	20020924 ~ 20021008	160.0		1127	土師器・須恵器・陶磁器・瓦・銅錢・鉄製品
34	0245	箱崎3丁目 3356-1	20021114 ~ 20021202	70.0		年報17	土師器・陶磁器
35	0247	箱崎3丁目 9-33	20021202 ~ 20021210	32.0		年報17	土師器・陶磁器
36	0252	箱崎3丁目 3380	20021211 ~ 20030221	199.0		年報17	土師器・須恵器・陶磁器・銅錢・石器・人骨

Tab.1 箱崎遺跡調査一覧表1

次 数	調査 番号	所在地	調査期間	調査 面積 (m ²)	古 墳	報告書	特記する遺物内容
37	0253	馬出5丁目地内	20021213～20030331	493.0		951	土師器・陶磁器・石製品・鉄製品
38	0260	箱崎3丁目9-49	20030203～20030308	90.0		814	土師器・陶磁器・瓦・銅錢
39	0302	箱崎1丁目2031・ 2029-1・2029-2・ 2029-3の一部	20030410～20030509	149.2		854	土師器・陶磁器・瓦・石製品
40	0318	箱崎1丁目3・4・馬 出1丁目30	20030514～20040325	3,530.0	3	948・949	土師器・陶磁器・イスラム陶器・滑石製品・ 鉄刀・鉄鏃・鉄刀子・鉄鍔
41	0343	箱崎3丁目2426外	20030916～20031211	1,000.0		854	土師器・瓦器・陶磁器・瓦・人骨外
42	0351	箱崎3丁目2379番1	20031021～20040127	569.0		896	土師器・陶磁器・瓦・土製品
43	0356	箱崎1丁目2697-1	20031121～20031215	83.1			土師器・陶磁器・須恵器・鉄滓
44	0368	箱崎1丁目35-3	20040216～20040315	114.9		854	土師器・陶磁器・瓦器
45	0369	馬出5丁目24地内	20040301～20040322	152.0		951	土師器・陶磁器・木製品・彫形分銅・銅 鏡
46	0434	箱崎1丁目4地内	20040701～20050331	4,268.2		948	土師器・陶磁器・鉄鏃
47	0437	馬出5丁目地内	20040720～20050331	1,071.0		1046	土師器・須恵器・陶磁器・文字瓦・青銅製權・ 石製品・鉄製品
48	0464	馬出5丁目461-1	20041118～20041122	39.0		年報19	土師器・陶磁器
49	0504	箱崎1丁目	20050401～20060215	595.0		949	土師器・瓦器・鉄刀
50	0517	馬出5丁目461番1	20050512～20050604	69.0			弥生土器・土師器・陶磁器・銅鏡
51	0559	箱崎1丁目36-37	20060116～20060411	270.0		952	土師器・陶磁器・瓦・銅鏡・滑石製品・漆器・ 箸
52	0626	箱崎1丁目1925他5 等	20060619～20060828	350.5		997	土師器・陶磁器・瓦・埠・銅鏡・茶臼・ 鉄製品
53	0648	箱崎3丁目2442-1	20061010～20061201	495.0		996	土師器・陶磁器・滑石製品・土鍤
54	0650	馬出5丁目地内	20061023～20070228	333.0		998	土師器・陶磁器・瓦
55	0664	馬出5丁目地内	20070121～20070529	545.0		995・ 1046	土師器・須恵器・陶磁器・石製品
56	0665	箱崎1丁目2505他	20070201～20070427	424.0		1047	土師器・陶磁器・石製品
57	0671	箱崎1丁目2493	20070312～20070427	245.0		999	土師器・陶磁器・瓦・銅鏡・滑石製品・漆器・ 箸
58	0736	馬出5丁目504番1号 の一部	20070925～20070925	13.0		年報22	土師器・陶磁器・須恵器
59	0749	箱崎3丁目2412-1	20071105～20071215	156.4		1048	土師器・須恵器・陶磁器・金屬器・骨・ 貝
60	0762	馬出5丁目510番	20080121～200803				土器・鉄器・銅鏡・ガラス小玉
61	0811	箱崎3丁目3371- 1,3373-3各一部	20080512～20080612	190.0		1092	土師器・陶磁器・銅鏡・貝殻
62	0825	馬出5丁目	20080716～20081015	693.2		1093	土器・陶磁器・木・洞・鉄製品・甕棺
63	0826	箱崎1丁目27-17	20080717～20081015	506.0		1094	土師器・瓦器・須恵質土器・陶器・磁器・ 土・金屑・石製品
64	0916	箱崎1丁目2804-29.10	20090803～20091007	209.0		1128	土師器・陶磁器・銅鏡・土鍤・石鍤・石 製品
65	0923	箱崎3丁目3374-1の 一部・3374-3	20090909～20091006	31.9			土師器・須恵器・陶磁器・銅鏡・石器・ 人骨
66	1011	箱崎1丁目2699番1 号	20100614～20100713	127.0			
67	1026	箱崎1丁目2806番1	20100927～20101217	271.0			土師器・瓦器・国産陶器・輸入陶磁器・石器・ 鉄器
68	1034	箱崎1丁目2930-4, 2718-4	20110111～20110214	66.4			土師器・瓦器・須恵質土器・陶器・磁器・ 石製品・獸骨

Tab.2 箱崎遺跡調査一覧表2

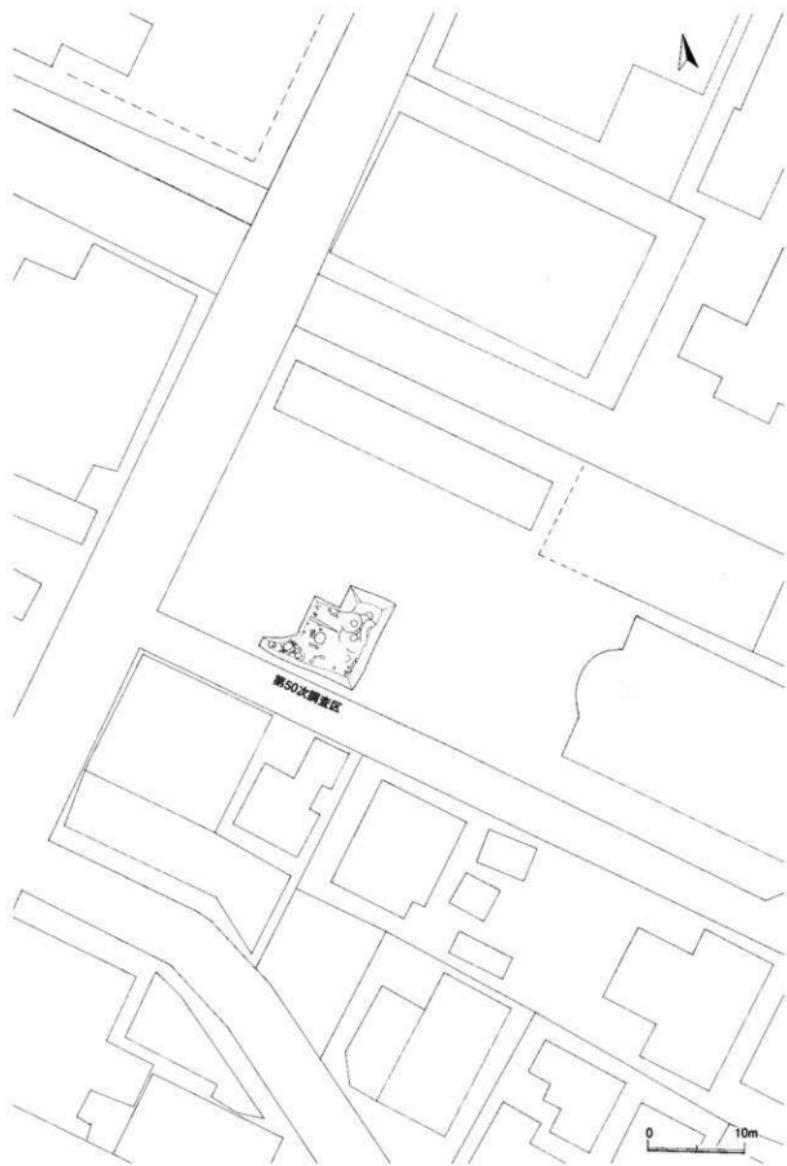


Fig.5 第50次調査区周辺現況図 (1/500)

II . 第50次調査の記録

1. 調査の概要

第50次調査区は、箱崎遺跡の西側緩斜面の南西部に位置し、標高25mのコンターラインの縁辺に占地している。位置的には菖崎宮本殿の南西方150mにあり、周辺では都市計画道路馬出東浜線の新設に伴う発掘調査のほかに民間開発に伴って調査された第13・17・18・33・45次調査区がある。12世紀から14世紀代の集落遺構群が濃密に拡がっており、中国や朝鮮半島からの輸入陶磁器類が多数出土している。

平成16(2004)年12月27日に東区馬出5丁目461番1において共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無確認の申請が提出された。この地は、既に平成16(2004)年にも同様の申請がなされ、第48次調査として遺構確認調査が実施され、輸入陶磁器片や土師器が出土した。しかし、この時の設計計画案では、基礎設計の変更によって影響が遺構面に及ばないと判断されたために慎重工事として処理された。しかしながら、今回の設計計画では建物基礎が深く、遺構面の破壊が免れないと判明したために発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。

申請地は、東西に細長い敷地に加えて北隅にはコンクリート製の污水槽があり、排土を場内処理するためには調査区を2分割して調査することにした。発掘調査は、平成17(2005)年5月12日に東側を小型のパワーショベルで表土層を除去することから始めた。その結果、表土下120cmで近世の井戸と混在して中世の土壤を検出し、この面を第1面として遺構の調査を開始した。調査に当たっては、平瓦巻きの近世の井戸は、プランの確認に留めて精査することから除外した。この第1面の整地層を10~20cm掘り下げると基盤層の黄白色砂層に至り、この面に12世紀代の井戸や土壤を検出した。この東側の調査終了後、5月28日に排土を移動して既調査区を埋め戻し、西側調査区の表土層を除去して遺構の精査に着手した。西側の調査区では、掘立柱建物や土師器小皿が大量に投棄された廃棄土壤を検出した。この廃棄土壤の下には、大きく深い土壤があり、井戸の可能性が考えられたが、調査区幅が狭く、南側半分は、既設道路下に拡がっているために危険であると判断して完掘することを断念した。写真撮影や遺構の実測を6月3日に終え、翌6月4日に調査区を埋め戻して更地に戻してすべてを終了した。この間、調査区の狭小さから休息場所も無く、初夏の暑い中で調査に従事された方々の労苦に改めて感謝いたします。

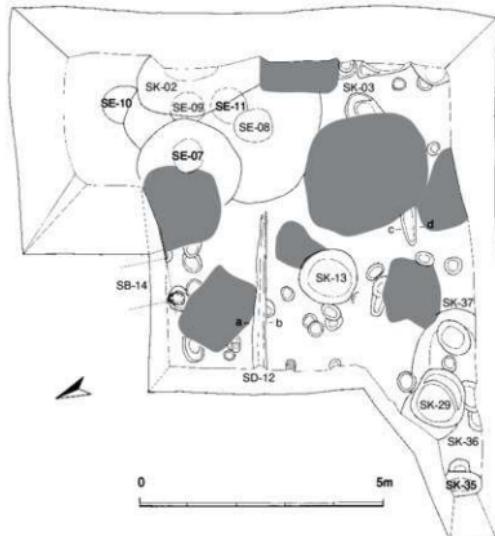


Fig.6 第50次調査区遺構配置図 (1/100)

2. 井 戸 (SE)

井戸は、調査区の東に偏って、5基を検出した。ただし、この中に近世の平瓦巻きの井戸は含まれていない。また、調査区の南西端にある廃棄土壌 (SK-29) の下層にある37号土壌はプラン的にも深さ的にも井戸の可能性が十分に考えられる。井戸は、すべて素掘りのもので、桶を井側としている。井戸は、上面の擾乱が著しくプランの概要が判るものは7号井戸と8号井戸で、ほかの3基は桶側を検出したのみである。井戸底は標高1.4mで、その上10~15cm付近から水が染み出してきた。時期的には12世紀代で、砂丘尾根の西側緩斜面に集落遺構群が拡大して展開する時期に符合している。

7号井戸 SE-07 (Fig. 7・8 PL. 3・5・10)

7号井戸は、調査区の北東部にまとまって並がっている井戸群の北端に位置し、5基の井戸群のうちで最も新しい。検出面の北西部は、近世の1号井戸によって削平されている。平面形は、直径が225~240cmの円形プランを呈するが、本来的には更に上層から掘り込まれており、もっと大きな円形と思われる。壁面は、緩やかな傾斜をもって底面へむかって窄まり、深さは160cmを測る。この掘方の東に偏って直径が62cmの桶を据えて井側としているが、桶は井戸底より65cmを残して上面は消失している。この桶は、板幅が7~9cmの杉板材を円形に組上げ、2ヶ所に絞めた籠が遺存していた。桶側と壁面の間には茶褐色砂層が裏込めに詰め込まれていた。井戸底の標高は0.4mで、0.5~0.6m付近に湧水点がある。遺物は、掘方や井側内から中国青磁碗、白磁壺・皿、陶器壺・甕、瓦器壺・鉢、瓦質壺・甕・鉢、合子などのはかに土師器壺・小皿片、石鍋片が出土した。

1は、口径が9cm、底径が6.8cm、器高が1.5cmの土師器小皿である。体部はヨコナデ、内底面はナデ、外底面は回転糸切り。胎土は精良で、少量の微細砂粒と雲母を含み、色調は明灰黄色。2は、直径が4.4~5.1cm、重さが136gの円碟である。砂岩質。

8号井戸 SE-08 (Fig. 7・8 PL. 3・4・10)

8号井戸は、調査区の北東部にある井戸群のうちでもっとも南に位置し、北縁は7号井戸に切られているが、東は11号井戸の井側を切っている。平面形は、直径が約300cmの円形プランをなすと考えられる。深さは225cmで、壁面は井戸底へむかって緩やかに窄まる。この掘方の中央に直径が65~80cmの楕円形の桶が井側として据えられていたが、その原形は直径が72~74cmであろう。桶は、板幅が6~10cmのやや不揃いな杉板材を円形に組上げておらず、輪絞めの籠が遺存していた。桶は底から50cmを残して消失しているが、本来的には幾段か積重ねていたと考えられる。井戸底の標高は、0.5mである。遺物は、掘方や井側内から青磁碗、白磁碗、陶器甕、瓦器鉢・壺、須恵質甕のはかに土師器壺・小皿・甕と平瓦片が出土した。

3は、口径が19.6cm、底径が10cm、器高が8.5cmの瓦質鉢である。体部はストレートに外反し、丸く収めた口縁部は外唇が肥厚する。調整は、口縁部がヨコナデ、外面は押圧後にハケ目、内面は粗いハケ目で底面には板目压痕が残る。胎土は良質で、石英砂と雲母をわずかに含み、焼成は良好。色調は灰白~灰黒色。4は、瓦質の片口捕鉢で、口径が28cm、底径が10cm、器高は11cm。ストレートの外反する体部外面は粘土織目痕で波打っている。調整は、内面がナデ後にハケ目、外面は押圧ナデ、外底面は板目压痕。胎土は良質で、石英小~中砂粒と雲母を含み、色調は淡灰~濃灰色。5は、口頸が26cmの土鍋である。体部は、半球形をなし、口縁部は短い逆「L」字状をなす。調整は、口縁部がヨコナデ、外面は押圧ナデ~ハケ目、内面は粗いハケ目で、外面には煤が付着している。胎土には石英小~粗砂粒を含み、焼成は良好。色調は明褐色~暗黄橙色。

9号井戸 SE-09 (Fig. 7・8 PL. 3・4・5・10)

9号井戸は、調査区の北東部に並がる井戸群の中ではば中央部に位置し、西半部は7号井戸に切ら

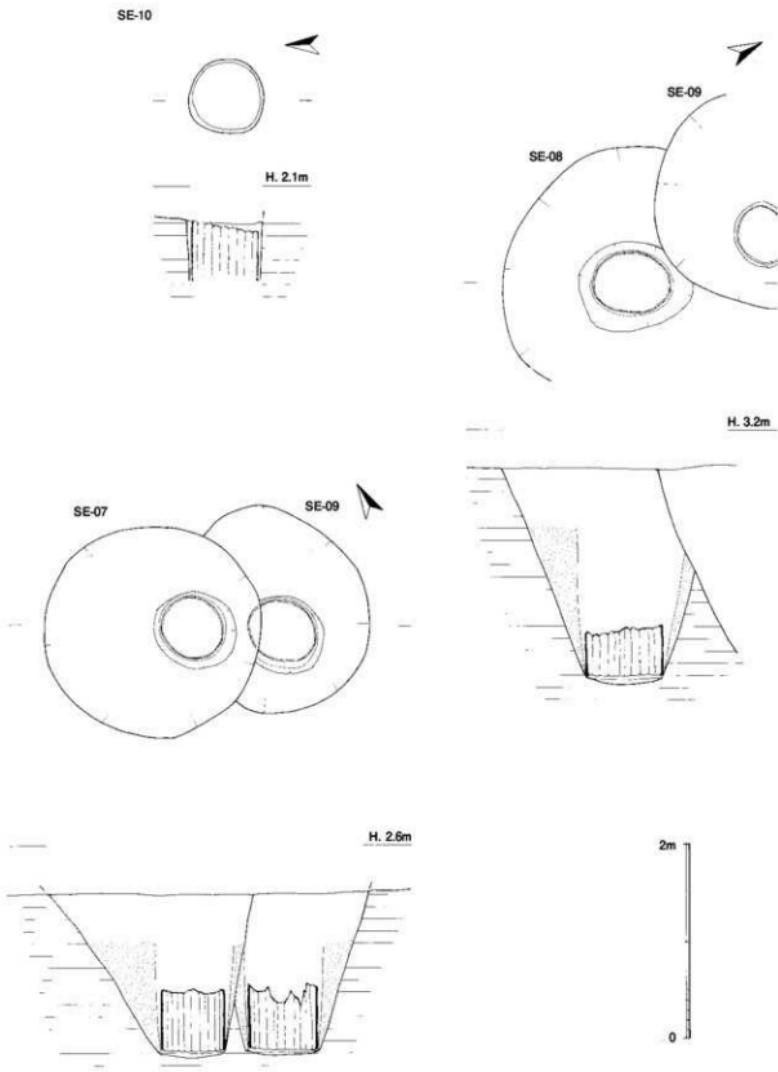


Fig.7 7・8・9・10号井戸実測図 (1/50)

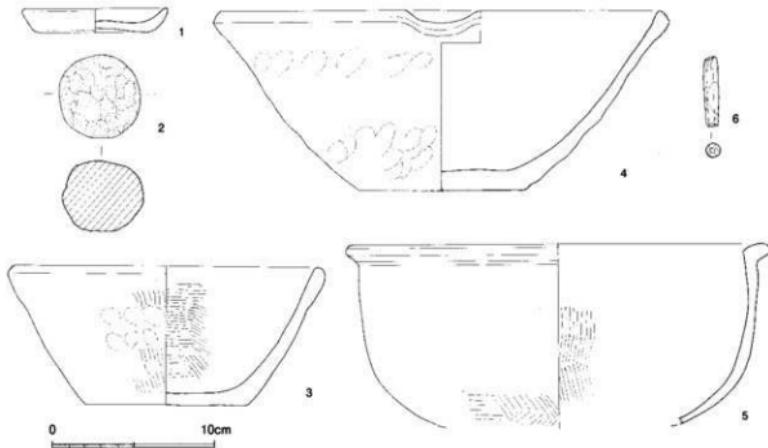


Fig.8 7・8・9号井戸出土遺物実測図 (1/3)

れている。また、南には11号井戸の井側があるが、その前後関係は明らかにできなかった。平面形は、遺存する北側の掘方から復原すると直径が180～210cmの楕円形プランをなそうか。壁面は緩やかに窄まるが、井側が南西に偏っているために西壁から南壁側はやや急峻に窄まっている。井戸底までの深さは165cmで、標高は0.45mである。この掘方の南西に偏って直径が62～67cmの桶を掘えて井側としている。桶は、7～11cm幅の杉板材を組上げており、2ヶ所に消失した輪絞めの縦痕が残っていた。桶は底から70cmを残して上面は消失している。井側の桶と立面の間には、茶～暗茶褐色砂が裏込めに詰め込まれていた。遺物は、井側内から青磁壺・碗、瓦器壺、瓦質壺・鉢、陶器壺、須恵質壺のほかに土器器坏・小皿片が出土したが量的には少ない。

6は、小型土錐である。長さは4.3cm、直径は0.9cm、孔径は0.3cm。

10号井戸 SE-10 (Fig. 7 PL. 3・5)

10号井戸は、調査区の北東部に抜がる井戸の中でもっとも東端に位置する素掘りの井戸で、西側は7号井戸、南側は9号井戸に切られているため桶側を残して全容は明らかではない。井側は、逆さまに埋置した桶を標高1.15mの地点で検出したが、60cmほど掘ったところで水が湧き出して壁面が崩落したために井戸底の確認は断念した。桶は、板幅が8cmの揃った杉板材を円形に組上げている。また、桶は下面に比べて上面の径が小さくなっている、上下を逆さまに置いて積み重ねたものであろう。遺物は、井側内から土器器坏・小皿片が出土した。

11号井戸 SE-11 (Fig. 9 PL. 4・10)

11号井戸は、調査区の北東部に抜がる井戸群の南東隅にある素掘りの井戸で、東は9号井戸に、北は7号井戸に、南西部は8号井戸に切られており、5基の井戸群中でもっとも古い可能性がある。この井戸は、8号井戸の井側桶の精査中に検出したもので、井側桶自体が8号井戸の桶側に切られている。8号井戸の桶側を実測し終えた後に壁面が崩落したために桶側内の精査は出来なかった。桶は、幅が8～9cmの杉板材を組上げて縦で巻絞めていた。遺物は、井側内から白磁碗・壺・皿のほかに陶器壺・壺、瓦質鉢、土器器坏・小皿片と石鍋片が出土した。

7は、高麗青磁の鶯形香炉の蓋である。蓋径は11.3cmで、中央部に2.2cm径の孔がある。鶯喬の現長は14.4cm、高さは9.2cm。鶯喬は翼を折り畳み、尾羽は天を向いている。蓋の裏面には6ヶ所に目砂痕がある。灰白色の胎土に淡オリーブ色の釉薬を掛けている。12世紀前半の産。8は、口径が18.4cm、高台径が6cm、器高が5.8cmの白磁碗である。体部は緩やかに外反し、口縁部は小さく外方に摘み出す。体部下半から高台は露胎。IV-1類。9は、陶器の四耳壺で、口径は7.5cm。肩部の4ヶ所に粘土紐を対称位に貼り付けて把手としている。胎土は緻密な灰白色土で、灰白色の釉薬を施釉している。10は、口径が46cmの大型の緑釉陶器壺である。大きく外脛した口縁部は、内唇を小さく摘み出し、上縁には浅い横凹線が巡る。濃茶色の鉄釉に明緑色の釉薬を上掛けしている。11は、直径が1.9~2.7cmの土製玉で、やや歪な橢円形状をなしている。12は、滑石製石鍋片を再利用した模造鏡である。石鍋の把手を鋤に擬し、内面は更に磨いて鏡面を凸面状に滑らかにしている。面径は、3.9cm×5.3cmの橢円形をなす。

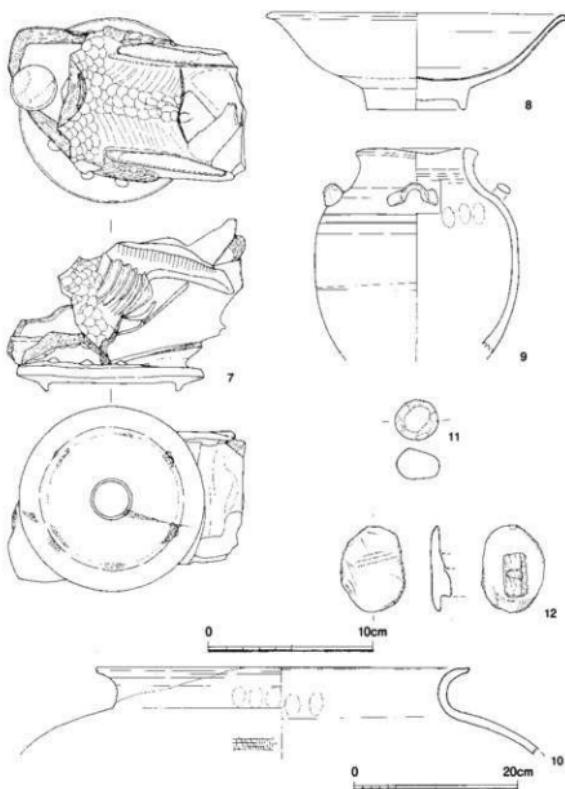


Fig.9 11号井戸出土遺物実測図 (1/3・1/6)

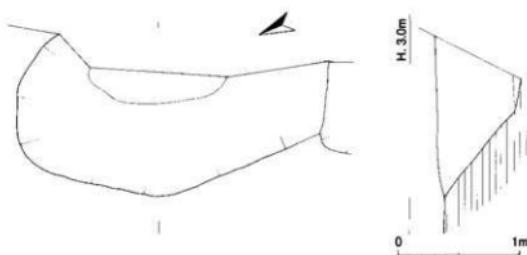


Fig.10 2号土壤実測図 (1/40)

3. 土 壤 (SK)

土壤は、すべて7基を検出した。形状的には、円形～楕円形プランのものがある。土壤の本来的な機能は井戸と考えられるが、それが明らかなものは1基(SK-29)のみでそのほかのものは判然としない。この中にあって37号土壤は掘方も大きく井戸の可能性がある。時間的には大きな差はない。また、調査区が69m²と狭小なために分布的な傾向を窺うことはできないが、やや南部域にまとまる傾向が窺える。

2号土壤 SK-02 (Fig. 10・11 PL. 2)

2号土壤は、調査区の東縁にある大型の土壤で、土壤下には8～11号井戸が掘り込まれている。東半部は調査区外に拡がり、南小口壁は擾乱を受けて消失している。平面形は、長辺が280cm、短辺が160cmの長楕円形プランをなそうか。壁面はなだらかに緩傾斜して立ち上がる。壁高は70cmを測り、断面形は船底状をなす。覆土は、粗砂層が混入した濃茶褐色土の單一層で、青磁碗、白磁碗、土師器壺・小皿・鉢、須恵器甕、須恵質平瓦、陶器焼片が出土した。

13は、高台径が6.8cmの高台付土師器皿である。高台は短くストレートに外反し、端部は外方に小さく摘み出す。胎土は良質で、微細砂と雲母、赤褐色粒を含み、色調は明黄橙～明赤褐色。14は、口径が9.6cmの龍泉窯系青磁小碗で、外面には蓮華文を施文している。黄色味を帯びたオリーブ色の精良な胎土に淡オリーブ色の釉薬を掛けている。15は、底径が6.8cmの半軸の白磁碗である。灰白色の胎土に透明な灰白色の釉薬を釉掛けしている。IV類。

3号土壤 SK-03 (Fig. 12)

3号土壤は、調査区の南隅に位置する小型の土壤で、西半部は近代の井戸によつて削平されている。平面形は、短辺が66cmで長辺が100cmほどの楕円形プランをなそうか。東小口壁下と北側壁下にはL字状にフラット面が付く2段掘りの構造をなし、そこから更に10cm掘り下げて壤底に至る。壤底までの深さは20cmで、断面形は浅い凹レンズ状をなす。覆土は暗褐色砂層で、遺物は土師器小皿片と陶器片がわずかに出土した。

13号土壤 SK-13 (Fig. 12)

13号土壤は、調査区のはば中央部に位置する土壤で、東壁の一部は擾乱を受けて

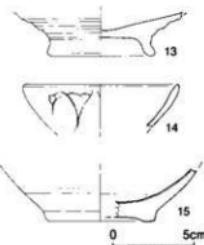


Fig.11
2号土壤出土遺物実測図 (1/3)

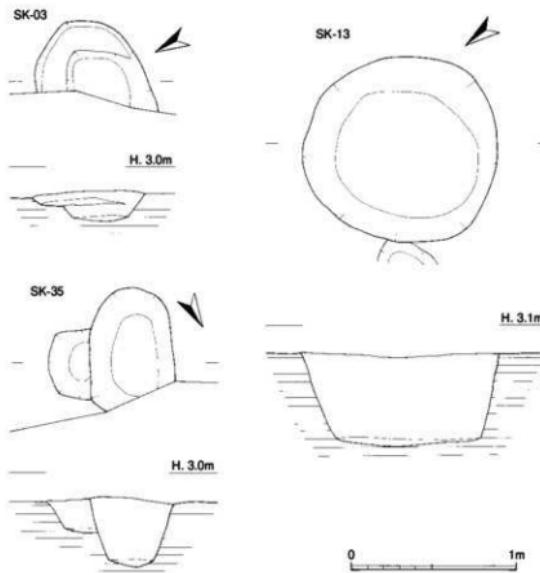


Fig.12 3・13・35号土壤実測図 (1/30)

消失している。平面形は、直径が114～118cmの円形プランを呈する。壁面はやや急峻に立ち上がり、壁高は54cmで断面形は逆台形をなしている。覆土は暗灰褐色砂層の單一層で、遺物は青磁壺・碗、白磁碗・蓋、土師器坏、瓦器塊と平瓦、石鍋片、鉄釘がわずかに出土した。

29号土壙 SK-29 (Fig. 13～17 PL. 7・8・10)

29号土壙は、調査区の南西端に位置する小型の廃棄土壙で、土壙下には36・37号土壙が掘り込まれている。平面形は、長辺が114cmで、短辺は95～110cmの台形に近い隅丸方形プランを呈している。壁面は緩やかに立ち上がり、壁高は34cmで南小口壁下には幅が15cmのフラット面が西壁の中端まで三日月状に巡る2段掘りの構造をなしている。断面形は壙央が浅く凹む舟底状をなしている。この土壙内には、土師器小皿をはじめとする多量の遺物が検出面まで満遍なく投げ込まれていた。覆土は、暗褐色～黒褐色砂層である。投棄された遺物は、土師器の坏と小皿が大半を占め、そのほかには青磁碗や白磁碗、土師質盤、瓦器鉢・甕、陶器甕片と唐・宋銭5枚が出土した。

16～70は、土師器小皿である。口径は7.3～9cm、底径は5.5～6.6cmで器高は0.8～1.6cm。体部はストレートに外反するものと内彎気味に外反するものがある。いずれも調整は、体部がヨコナデ、内底面はナデ、外底面は回転糸切りおよびその後に板目圧痕。胎土は精良で、少量の微細砂粒と雲母微細を含む。色調は淡明橙～明橙色。また、16や66などには口縁部に油煙が付着しており、灯明皿への転用品もある。71～97は、土師器坏である。おおむね口径が11.4～12.6cmで底径が8～9.4cmの小型タイプと口径が13～14cmで底径が9.5～10cmの大型タイプに大別される。器高は2タイプとも2.5～3cmでタイプによる相違はない。体部は、ストレートに外反するものと内彎気味に外反するものがある。いずれも調整は、体部がヨコナデ、内底面がナデ、外底面は回転糸切りで、板目圧痕が残るものがある。胎土は良質で、微細～細砂粒と雲母微細、赤褐色粒を含み、色調は明橙色～明黄橙色。88や95には口縁部に油煙痕があり、灯明皿への転用品もある。99～101は、高台付土師器小皿である。口径は8.7～8.9cmで、高台高が1cmの低いもの(100)と2.6～2.9cmの高いもの(101・102)がある。胎土は精良で、微細砂と雲母微細を少量含む。色調は、明黄橙色。101の口縁部には油煙が付着しており、灯明皿への転用品である。102は、高台付土師器坏で、高台径が8.8cm、高台高は2.6cm。胎土は精良で、少量の微細砂、雲母微細、赤褐色粒を含む。明黄橙色。103は、口径が33cm、底径が25.6cm、器高が8.3cmの土師質盤である。体部は平底の底部からやや膨らみながら直口し、口縁部は逆L字状に水平に摘み出す。調整は、内外面共に押圧ナデ後に粗いハケ目。胎土には小～石英中砂粒と雲母粒を少量含む。内面は明黄橙色、外表面は明黄橙～赤褐色。104は、口径が29.4cmの須恵器質の鉢である。体部は大きく外反し、垂直に立ち上がる口縁部は、小さく内傾して内面の屈曲部には四線状の刻みが巡る。胎土は精良で、色調は灰黒色。



Fig.13 29号土壙実測図 (1/20)

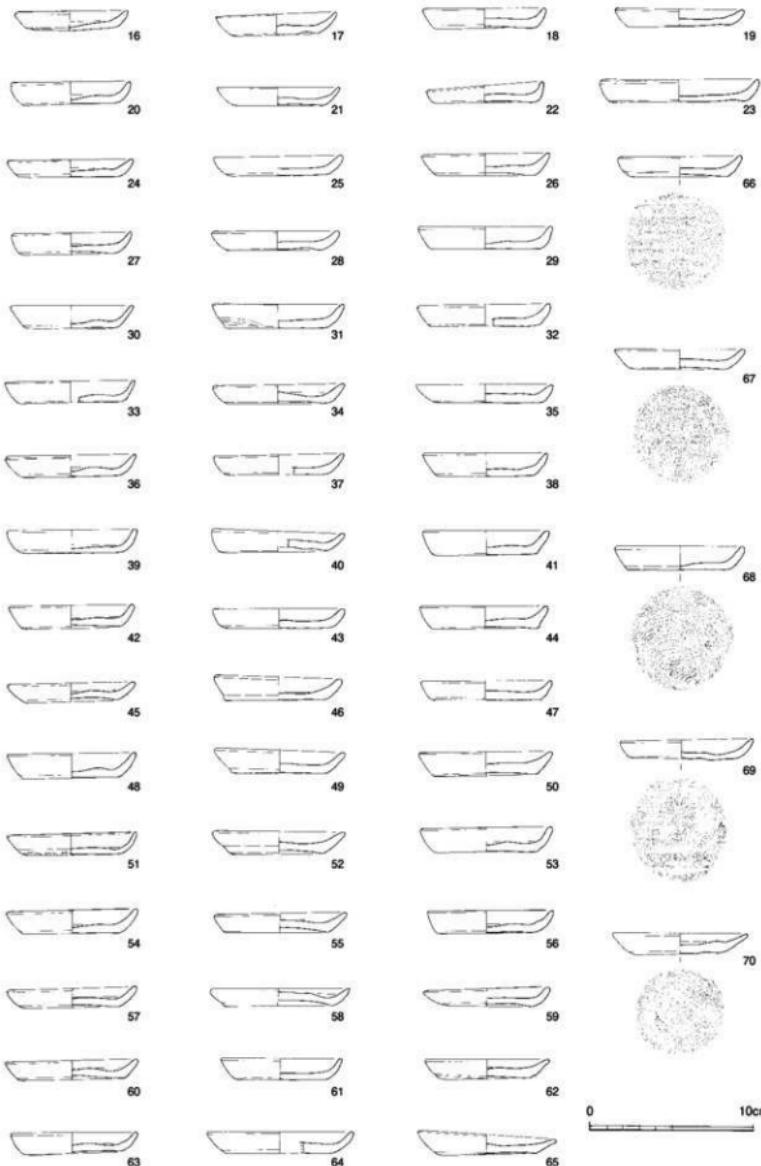


Fig.14 29号土壤出土遺物実測図 1 (1/3)

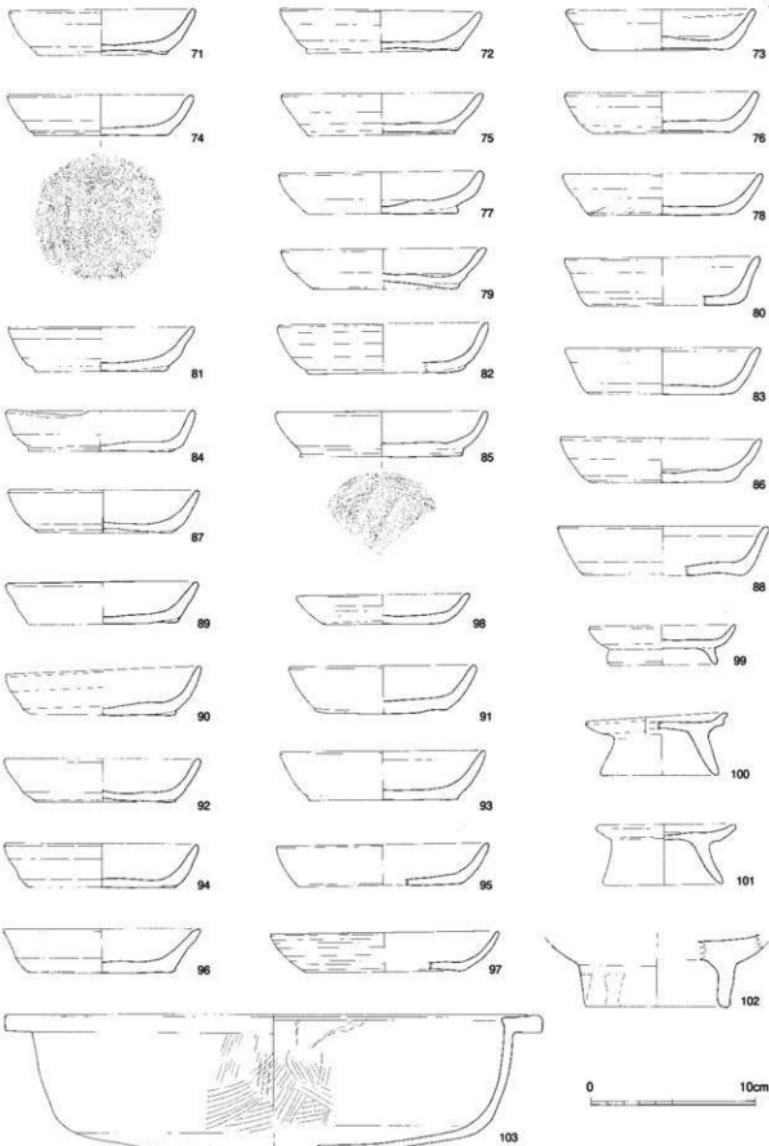


Fig.15 29号土壤出土遺物実測図 2 (1/3)

105～109は輸入銅錢で、105～107は宋銭、108・109は唐銭である。105は1039年初鋤の「皇宋通寶」。106は1023年初鋤の「天聖元寶」。107は1064年初鋤の「治平元寶」。108・109は621年初鋤の「開元通寶」。

35号土壤 SK-35 (Fig. 12・18 PL. 10)

35号土壤は、調査区の南西隅に位置する小型の土壤で、すぐ東には29号土壤がある。北小口壁が調査区外に抜がっているが、平面形は短辺が50cm、長辺が85cmの梢円形プランをなそう。壁面はやや急峻に立ち上がり、深さは44cmを測る。断面形は、壙央が凹レンズ状に凹む浅い舟底をなしている。覆土は暗茶褐色砂の單一層で、遺物は、青磁碗、土師器壺、陶器壺、瓦器鉢片と石鍋片が出土した。

110は、長さが4.1cm、直径が1.1cm、孔径が0.45cmを測る手捏の小型土錘である。胎土は精良で、明橙褐色。

36号土壤 SK-36 (Fig. 18 PL. 9)

36号土壤は、調査区南西隅に位置し、上面に29号土壤がある。上縁が29号土壤に削平されているために全容は明らかでないが、一辺が130～140cmの円形プランをなそうか。壁面は緩やかに立ち上がるが、25cm余り掘り下げたところで壁面の崩壊が起こり、完掘することを断念した。覆土は、粗砂層を多く含んだ暗黒茶褐色砂層である。遺物は、青磁壺・碗器、陶器壺・甕、土師器壺・小皿、土師質甕、瓦質甕片がわずかに出土した。

111～115は、土師器小皿である。口径は8～8.6cm、器高は1.2～1.8cm。調整は、体部がヨコナデ、内底面はナデ、外底部は回転糸切り。115は、外面に油煙が付着しており、灯明皿に転用されている。116は、口径が11.4cm、底径が8cm、器高が3cmの土師器壺である。体部はストレートに外反する。調整は、体部がヨコナデ、内底面がナデ、外底部は回転糸切り。胎土は精良で、少量の微細砂と雲母微細、赤褐色粒を含む。色調は明橙色。

37号土壤 SK-37 (Fig. 18 PL. 9・10)

37号土壤は、調査区の南西隅にある大型の土壤で、西壁は29・36号土壤に削平されている。平面形は、南壁が調査区外に抜がっているために明らかでないが、長辺が240cm、短辺が190cmほどの梢円形プランをなそうか。壁面は緩やかに立ち上がるが、90cmほど掘り下げたところで壁面崩壊の危険性が生じたために完掘を断念した。ここでは土壤として取り扱つたが、プラン的な大きさや深さなどを勘



Fig.16 29号土壤出土遺物実測図3 (1/3)

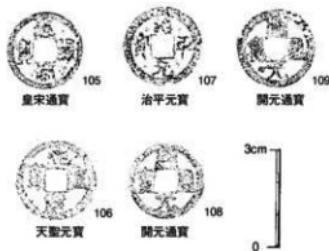


Fig.17 29号土壤出土銅錢拓影 (2/3)

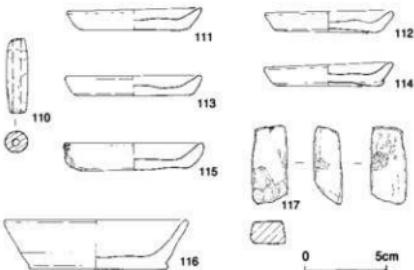


Fig.18 35・36・37号土壤出土遺物実測図 (1/3)

案すると井戸の可能性が十分に考えられる。覆土は、暗黒灰褐色砂土の単一層であるが、壁際は暗黒茶褐色砂層になっており、井側の存在が想起される。遺物は、青磁碗、白磁碗、土師器壺・小皿、須恵器甕、内黒瓦器塊片が出土した。

117は、滑石製石鍋の再利用品である。幅が21cm、厚さが1.7cmの棒状をなすが用途は不明。

4. 掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物跡は、調査区の北西縁で1棟を検出したが、大半が調査区の北に拡がっているためにその規模や分布状況は明らかではない。

14号建物跡 SB-14 (Fig. 19 PL. 6)

14号建物跡は、調査区の北西縁に位置する礎石建物で、2穴を検出したが、建物の本体部は北方へ拡がっているものと考えられる。柱穴は、40～50cmの楕円～隅丸方形プランを呈し、深さが15～20cmの穴底には18～25cmと25～35cmの扁平な円碟を据えて礎石としている。この2穴の柱間は1.0mで、1号井戸で搅乱された東側へ延びる可能性がある。覆土は、濃茶褐色砂土で、遺物は土師器壺片と瓦器甕片が出士した。

5. 溝遺構 (SD)

溝遺構は、すべて2条を検出した。しかしながら、いずれも調査区外に延びたり、搅乱を受けて完結せず、その機能や性格は明らかでないが、中世期の家屋あるいは街区の一部をなしていた可能性がある。

12号溝 SD-01 (Fig. 20)

12号溝は、調査区の北西部に位置し、すぐ南には13号土壤がある東西方の溝である。西側は調査区外に延びるが、現長は320cm、溝幅は24cmである。やや緩やかに立ち上がる壁面の深さは18cmで、断面形は浅い舟底状をなす。覆土は茶～暗茶褐色砂土で、白磁碗、土師器壺、瓦器甕片が出土した。

25号溝 SD-25 (Fig. 20)

25号溝は、調査区東縁にある短い溝状の遺構で、東半部は搅乱を受けて消失している。現長は80cm、溝幅は27cmで深さは30cm。壁面は、やや急峻に立ち上がり、断面形は浅い舟底状をなしている。覆土は暗茶～暗灰茶褐色土砂で、青磁碗、土師器壺、土師器小皿、瓦片が出土した。

6. その他の遺構と包含層出土の遺物 (Fig. 21 PL. 10)

調査区内には、井戸や建物跡、土壤のほかにピットや溝遺構が検出された。また、遺構の上面には暗茶褐色砂の遺物包含層が堆積しており、須恵器甕・壺、土師器壺・小皿、青磁碗、白磁碗、褐釉壺、合子、陶器甕・鉢、瓦器甕、瓦質甕・鉢、瓦片のほか石鍋片と人形土製品などが出土した。

118～120は、土師器小皿である。118は、口径が8.2cmで口縁部は短く外反して立ち上がる。119は口径が8.8cm、器高が14cm。体部は内縁気味に立ち上がる。120は、口径が9.4cm、器高が8cm。底部は糸切り後に板目压痕が残り、内面に墨書き痕がある。明黄橙色。いずれも胎土は精良で、微細砂

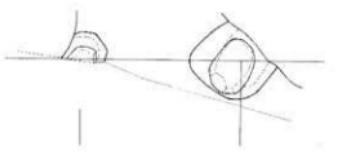


Fig.19 14号建物実測図 (1/30)

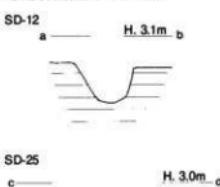
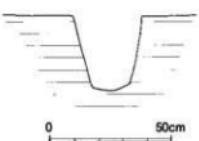


Fig.20 12・25号溝断面図 (1/20)



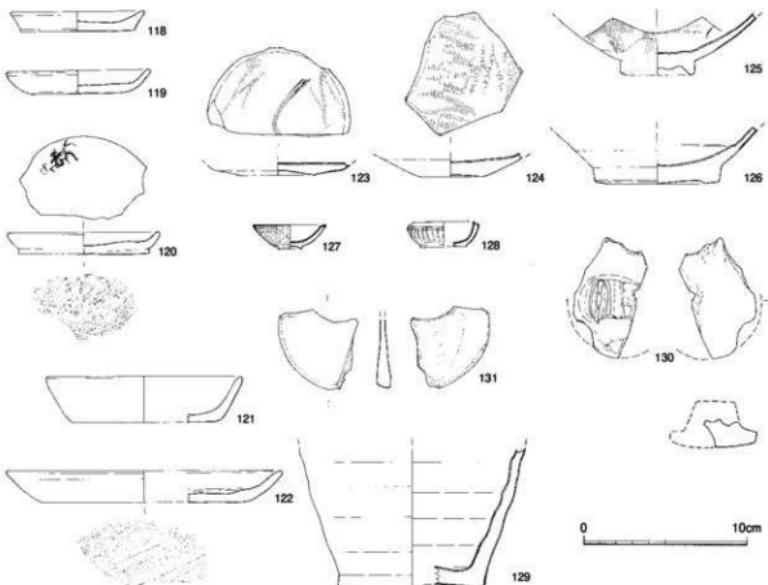


Fig.21 包含層出土遺物実測図 (1/3)

と雲母微細を含む。121は、口径が12cm、底径が8.2cm、器高が2.8cmの土師器坏で体部はストレートに外反する。胎土は精良で、小~中砂粒を少量含み、明黄橙色。122は、口径が17cm、器高が1.9cmの土師器皿である。底部は糸切り後に板目压痕。123は灰色の胎土に透明な淡灰青色の釉薬を掛けている。底径は4.4cm。I-1類。124は、底径が3.8cmのII-1類。胎土は灰白色で、淡オリーブ色の透明な釉薬を掛けている。125は、II類の同安窯系青磁碗で底径は4.6cm。体部内外面には櫛描きで施文し、見込みには圓線が巡る。灰色の胎土に淡オリーブ色の釉薬が掛かる。126は、底径が7.6cmの白磁碗である。見込みには凹圓線が巡る。胎土は灰白色で、透明な灰白色の釉薬が掛かる。IV-2類。127は、型打成形の紅皿である。口径は4.5cm、高台径は1.5cm、器高は1.5cm。体部は緩やかに内湾し、上縁を水平に仕上げた口縁部は小さく外方に摘み上げている。乳白色的釉薬を掛けている。128は、口径が4.4cm、底径が2.8cm、器高が1.6cmの型打成形の合子身である。直口する口縁部は、外縁を削って蓋受けを作り出している。灰白色的胎土に淡オリーブ色の釉薬を掛けている。123・124は、同安窯系青磁皿で、見込みには櫛描き文がある。129は、底径が9cmの褐釉陶器壺で、外底には重ね焼の目砂が付着している。胎土は緻密で、褐色~黒褐色の釉薬を掛けている。130は、滑石製石鍋を再利用した模造鏡である。石鍋の把手を鏡の鉢に擬している。面径は6cm×7cmほどの楕円形をなそうか。131は、観片である。

7. 第48次調査の遺物 (Fig. 22・23)

第48次調査は、先述のように平成16(2004)年に確認申請がなされ、面的な試掘調査の結果、設

計変更によって慎重工事として取り扱われ、「福岡市埋蔵文化財年報VOL.19」で既報されているが、第50次調査の着手にあたって取り残された遺物が発見されたので、改めて報告するものである。

132は、口径10.8cm、底径が6.4cm、器高が2.3cmの土師器小皿。

体部はストレートに外

反し、底部は回転糸切り。胎土は良質で、小～中砂粒と雲母を含む。明橙色。133は、玉縁口縁の白磁碗。口径は17cm。灰白色の胎土に透明な灰白色釉を施釉している。134は、肥前陶器の灯明皿。口径は9cm、底径は4cm、器高は2.4cm。外口縁と内面には茶褐色釉を施釉している。135・136は、小型の土錘。135は、長さが4cm、直径が1.5cm、孔径が0.4cm。色調は、明橙色で一部に黒斑がある。136は、長さが4.5cm、直径が1.7cm、孔径が0.6cmで濃橙色。いずれも胎土は精良で、若干量の微細砂粒を含む。137は、長さが31cm、幅が20.4～23.7cmの平瓦。

8. 小 結

発掘調査では、井戸をはじめ掘立柱建物のほかに廃棄土壌などを検出した。時期的には12世紀前半代以降のものである。これは砂丘尾からその東側が中心であった生活空間域が砂丘尾根の西側に拡大していく時期と符合し、箱崎遺跡が古代から中世にむかって宮崎宮を核として発展していく過程を考える上で貴重な資料となり得る。しかしながら、調査域が69m²と云う狭小さから具体的な様相は明らかではない。今後の周辺域の調査例の増加を待って総合的に検討されることが望まれる。

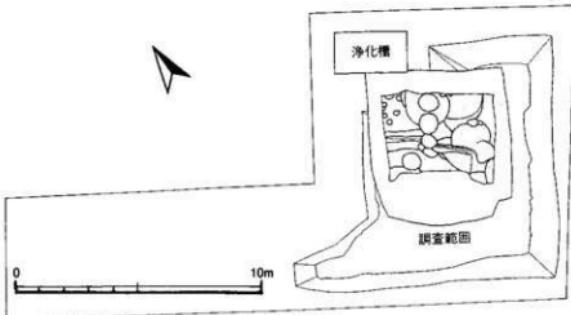


Fig.22 第48次調査区遺構配置図 (1/200)

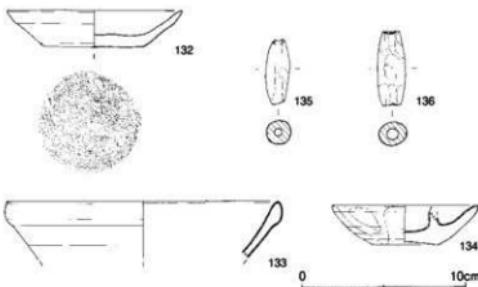


Fig.23 第48次調査出土遺物実測図 (1/3・1/6)



(1) 第50次調査区西側全景（北から）



(2) 第50次調査区東側全景（北から）



(1) 調査区東壁土層断面（南西から）



(2) 2号土壤（東から）



(1) 7~10号井戸（東から）



(2) 7号井戸（東から）



(1) 8・9号井戸 (西から)



(2) 8・11号井戸 (北から)



(1) 7・9号井戸井筒断面（南から）



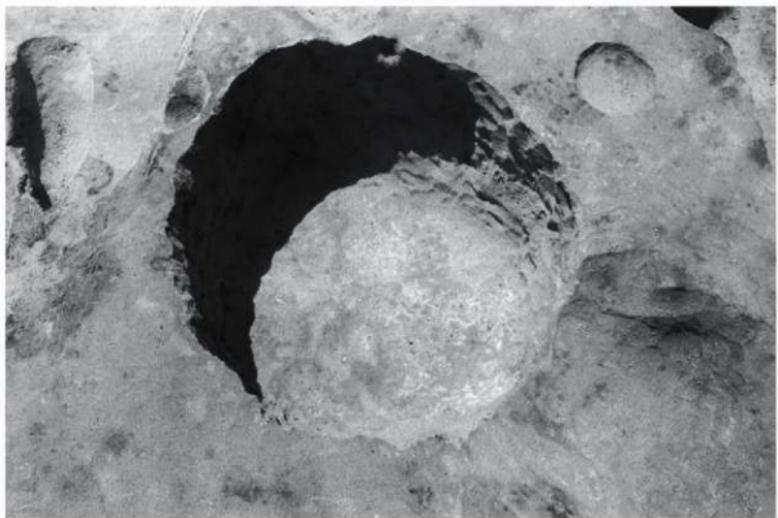
(2) 10号井戸（西から）



(1) 12号建物（北から）



(2) 12号建物（西から）



(1) 13号土壤 (南東から)



(2) 29号土壤 (西から)



(1) 29号土壤下層遺物出土状況（西から）



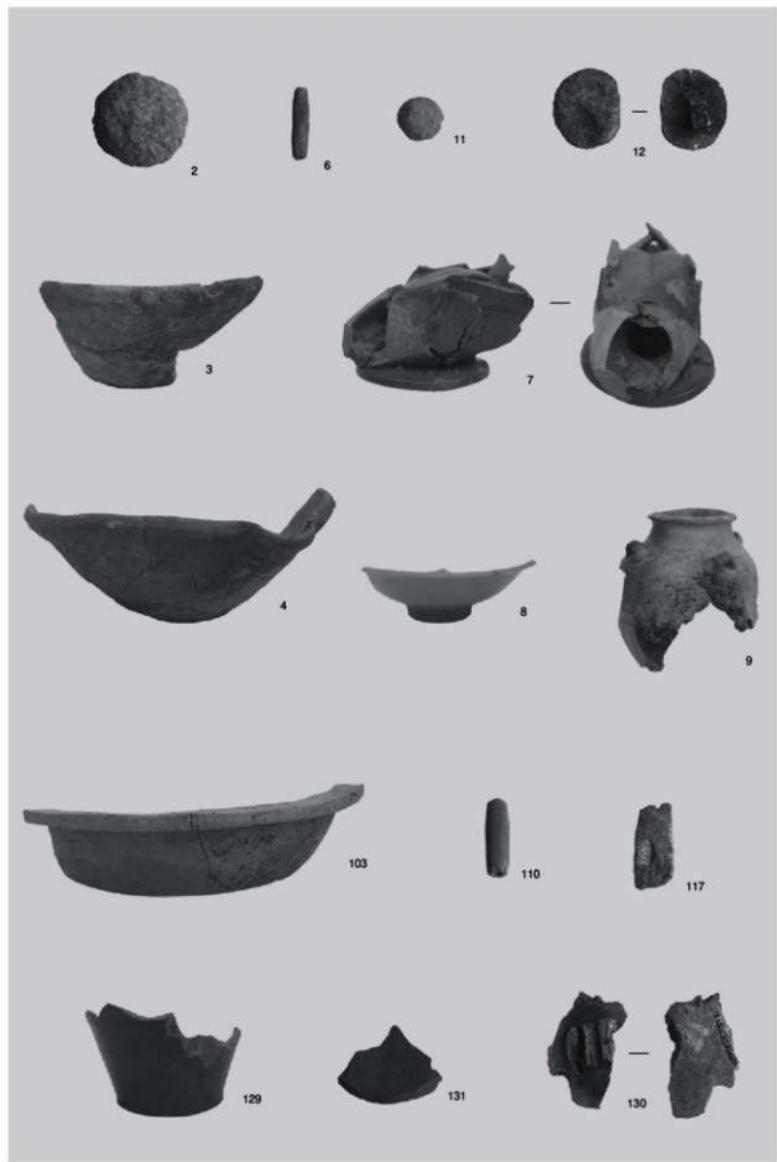
(2) 29号土壤下層遺物出土状況（北から）



(1) 36号土壤（南から）



(2) 37号土壤（南から）



出土遺物 (縮尺不同)



Fig.24 第60次調査区周辺現況図 (1/500)

III. 第60次調査の記録

1. 調査の概要

第60次調査区は、箱崎遺跡を南北に貫く砂丘尾根の西側に披がる緩斜面の南西部に位置し、周辺では市営地下鉄2号線や都市計画道路馬出東浜線の新設に伴って発掘調査が実施されている。

申請地は、妙徳寺の共同墓地であったが、都市計画道路東浜馬出線の延伸に伴う道路用地の供用で墓地改修をすることになった。申請地周辺は、これまでの調査で、砂丘の緩斜面が汀線を間近に控えるため遺構が稀薄になるところとされてきた。しかしながら、平成19(2007)年10月29日と12月6日に試掘調査を実施した結果、表土層下100~130cmの古砂丘上で淡褐色砂を覆土とする土壌や

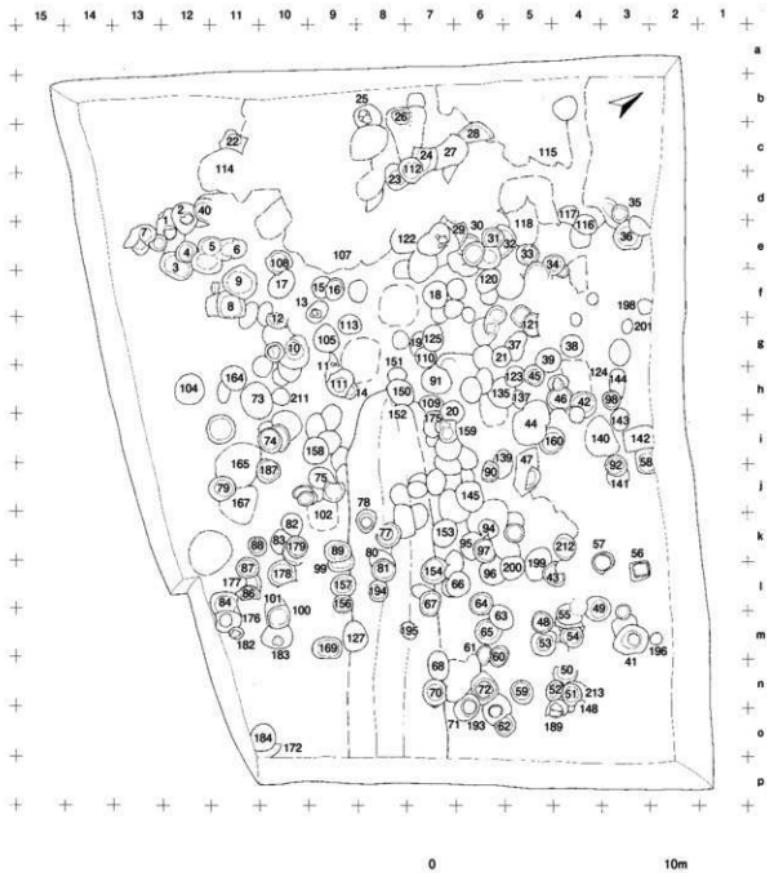


Fig.25 第60次調査区遺構配置図 (1/200)

柱穴を検出した。その結果、道路の供用には墓地の改修が必要なことから緊急に発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。発掘調査は、排土を場内で仮置きする必要から調査区を2分割して実施した。平成20(2008)1月21日に申請地の北側から調査をはじめ、中世の溝遺構1条と200基を超す近世墓を検出して3月27日にすべてを終了した。この間、表土層の除去と反転埋め戻しを除いてはすべて厳寒期の中での手作業であった。飲料、散水用の水もない劣悪な環境の中で作業に従事された方々の労苦と、妙徳寺ご住職のご協力に改めて感謝いたします。

2. 溝遺構 (SD)

溝遺構は、調査区の中央部で東西方向に延びる大溝1条を検出したが、それに付帯する生活関連遺構はなく、その機能や性格は判然としない。

69号溝 SD-69 (Fig. 26・27 PL. 12)

69号溝は、調査区の中央部を東西に延びる大溝で、調査区の中程で消失している。溝幅は、310～410cm、現長は15mであるが、西端は、近世墓や搅乱壙の重複で先細り状態になっており、本来的にはもっと長く延びていた可能性もある。深さは100cmで壁面は緩やかに立ち上がり、断面は逆台形をなす。上面には、数多の近世墓が掘り込まれており、プラン確認が困難なところもあった。覆土は、淡黄茶褐色砂層の単一層である。

138～140は、土師器小皿である。138・140は口径が7.4cmと8.2cm、底径は6cm、器高は1.3cmと1.4cmで、体部は内縁気味に立ち上がる。底部は回転式切りで明橙色。139は口径が7.8cm、器高が1.6cm。厚い体部は短く外反する。内面に油煙の付着痕があり、灯明皿への転用品である。141は、口径が17cmの瓦質壺である。口縁部は球形の胴部から短く直口し、上縁は小さく外傾する。142は1101年初鋤の「聖宋元寶」。

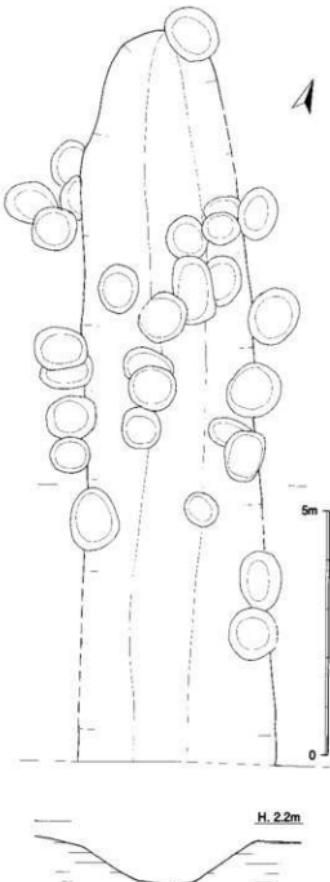


Fig.26 69号溝実測図 (1/100)

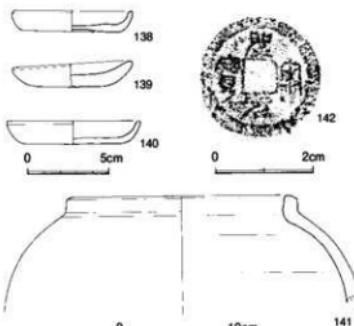


Fig.27 69号溝出土物実測図 (1/1・1/3・1/4)

3. 近世墓 (SX)

近世墓は、200基以上を検出した。分布的には、共同墓地と云う性格上調査区全域に拡がっている。現墓地は、整然とした区画墓であるが、以前は江戸時代後期から明治時代初期の集合墓地でその重複は甚だしいものがある。また、砂上に掘り込まれた造構の性格上、検出後の崩落が著しく不確定な点が多くある。埋葬形態は、1基の箱棺を除いて桶棺と陶器甕棺に大別され、その大要は別表に示した。

2号墓 SX-02 (Fig. 28・33 PL. 13)

2号墓は、e-9区にある陶器甕棺墓で、陶器甕は1枚の花崗岩で覆蓋されている。

143は、口径が54cm、器高が75.2～76.8cmの肥前系陶器甕。肩部と中位に3条の深い凹線が巡るが、中位の凹線は螺旋状に巡る。外面には格子目のタタキ後にナデ。口縁部内唇の16ヶ所に砂目痕が残る。

5号墓 SX-05 (Fig. 28・34 PL. 14)

5号墓は、e-10区にある桶棺墓で消失した桶の底には鉄と毛抜き、土師器小皿2枚のほかにいわゆる六道銭と云われる寛永通寶6枚が副葬されていた。東接する6号墓より新しい。

144・148は、土師器小皿。口径は、6～6.1cm、器高は1.4cm。146は、長さが8.7cmの毛抜き。身幅は6mm、身厚は1mm。147は、大型の鉄鉢で、刃部端を欠き、長さは13.4cm+α。刃部に木質の錆着痕が有り、樹の可能性がある。

9号墓 SX-09 (Fig. 28・34 PL. 15)

9号墓は、g-9区にある桶棺墓で、棺底には鉄や毛抜き、煙管、銅錢などが副葬されていた。

148～150は土師器小皿で口径は8～8.2cm、器高は1.4～1.6cm。体部が内彫気味に立ち上がるものの(148)とストレートに外反するもの(149・150)がある。151～153は煙管。151・152は雁首、153は吸口で雁首には竹製羅宇が挿入されている。152と153には布目の錆着痕がある。154は、長さが14.6cmの鉄鉢で、刃部長は5cm。155は、長さが9cm、幅が1.1cmの毛抜きで身厚は1mm、身幅は1.1cm。156～161は、錆着した銅錢。銅錢には布の錆着痕があり、全体を布で巻いていた可能性がある。

27号墓 SX-27 (Fig. 29・34 PL. 16)

27号墓は、d-5区にある桶棺墓で、削平された棺底には白磁蓋や染付蓋、赤絵紅皿などの肥前磁器類が副葬されていた。

162・163は、土師器小皿で、口径が8.3cm・8.4cm、器高が1.2cm・1.5cm。164は、肥前白磁の甕蓋で口径は4.4cm、器高は3cm。17～18世紀。165は、肥前磁器の色絵紅皿。口径は6.1cm、器高は1.9cm。体部に羽子板と追羽根を描いた。18～19世紀中葉。166は、肥前染付蓋で天井部には唐草文と梅花文を描く。19世紀の產。167は、直径が4.7cm、厚さが1mmの円盤状銅製品で、布の錆着痕がある。

31号墓 SX-31 (Fig. 29・34 PL. 17)

31号墓は、e-4区にある桶棺墓で、土師器小皿のほかに鉄、毛抜きと銅錢6枚が副葬されていた。

168・169は、回転糸切りの土師器小皿で、体部は内彫気味に立ち上がる。170は、長さが13cm、刃部長が4.8cmの大型鉄鉢。171は、毛抜きで、長さは8.2cm、身幅は6mm、身厚は1.5mm。

43号墓 SX-43 (Fig. 29・34 PL. 18)

43号墓は、e-3区にある桶棺墓で、鉄と毛抜き、煙管、櫛、銅錢と土師器小皿が副葬されていた。

172・173は、土師器小皿で底部は回転糸切り。174・175は鉄鉢。174は、長さが16.8cm、刃部長が6.1cm。175は、長さが15.5cm、刃部長が6cm。176は、長さが8.1cmの毛抜きで、身幅は8mm、身厚は1mm。177は、長さが8.7cm、幅が1.3cmの毛抜き。身幅は9mm、身厚は1mm。178～184は錆着した「寛永通寶」。錆着した鉄(175)と毛抜き(176)の上面には目幅の違う櫛歯痕が錆着している。185は煙管の雁首で、竹製羅宇が挿入されている。

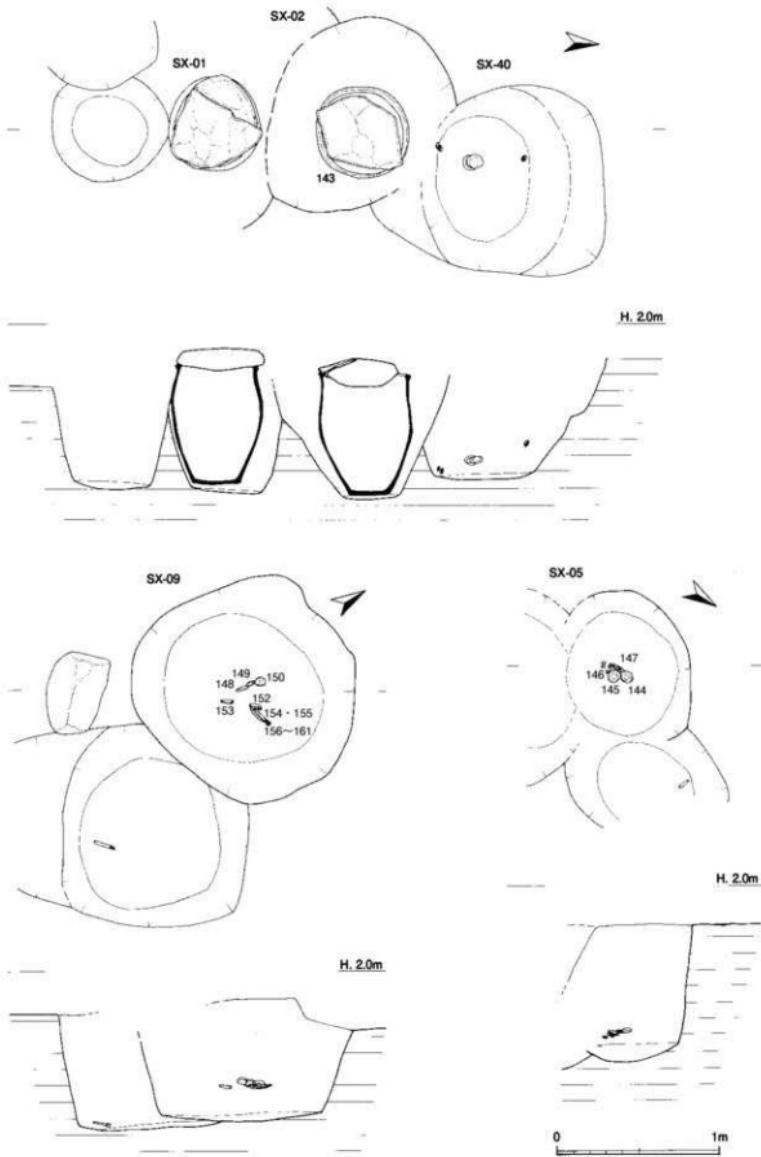


Fig.28 2・5・9号墓実測図 (1/30)

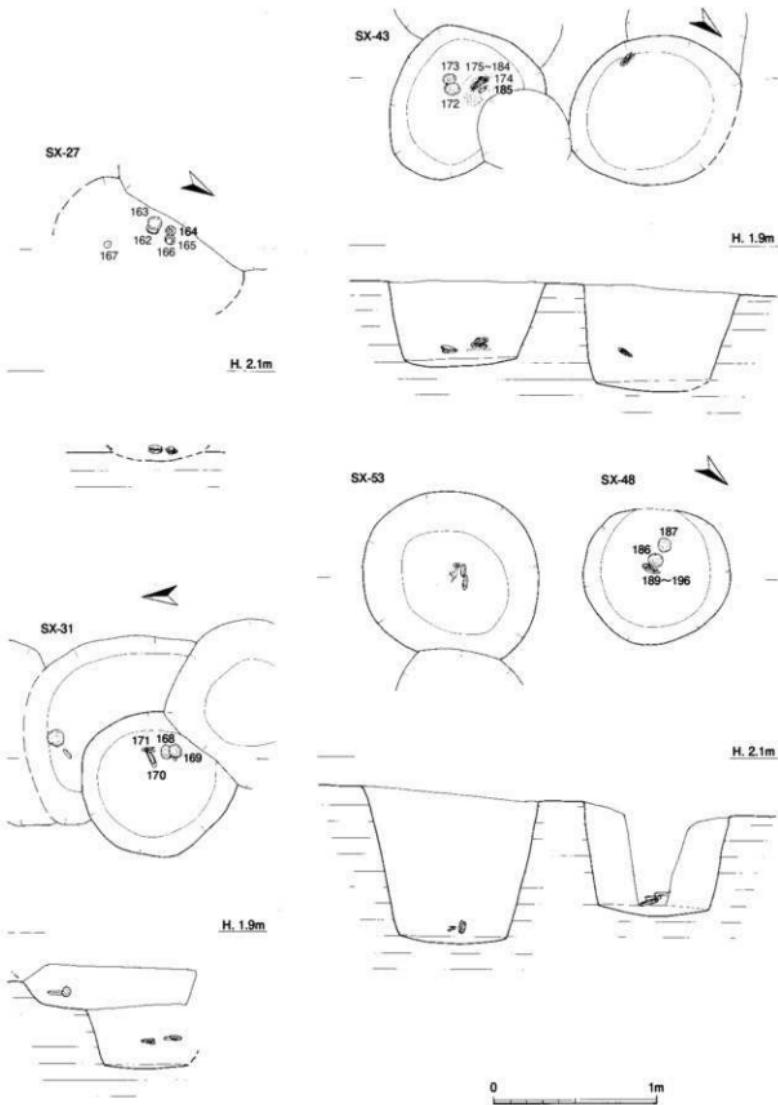
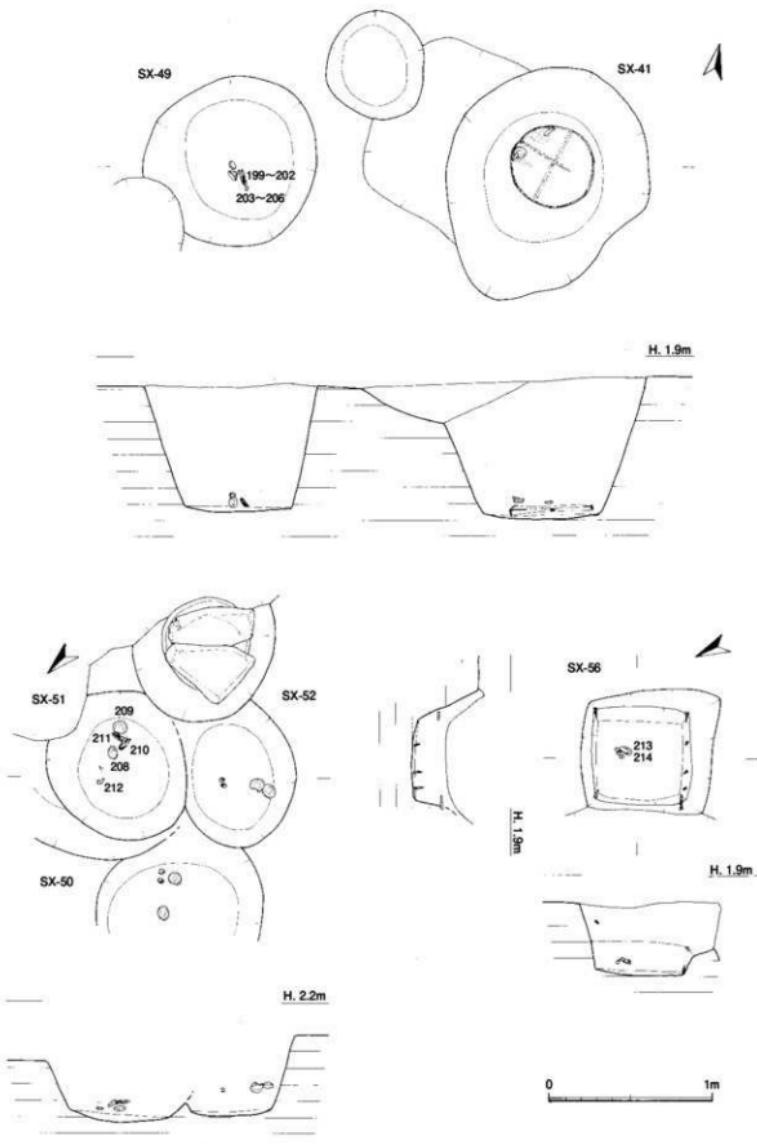


Fig.29 27·31·43·48号墓穴測図 (1/30)



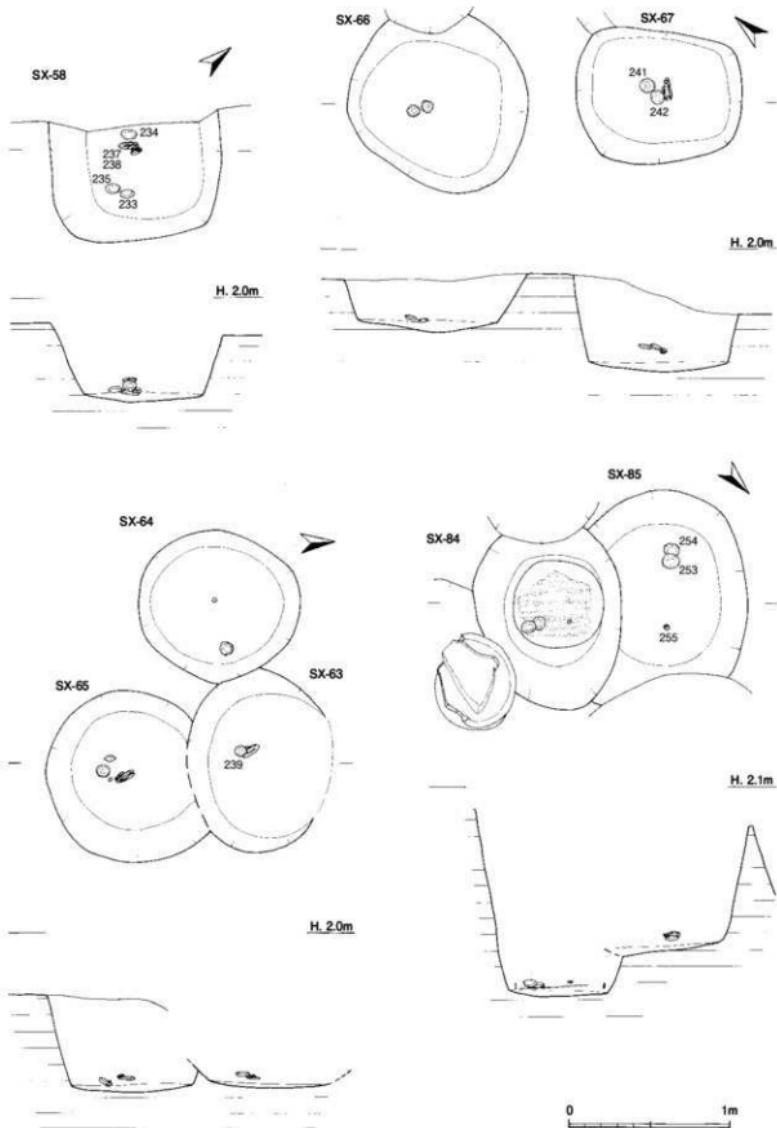


Fig.31 58·63·67·85号墓实测图 (1/30)

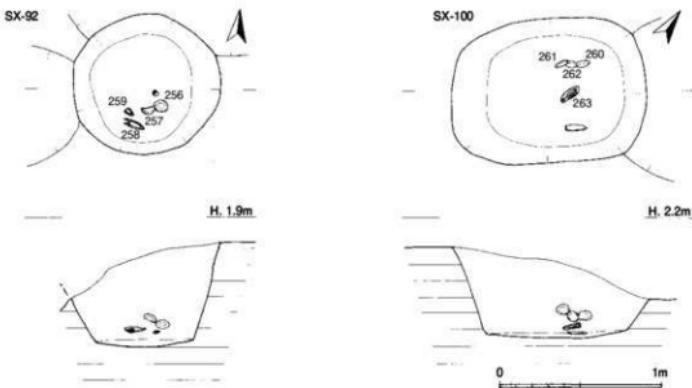


Fig.32 92・100号墓実測図 (1/30)

48号墓 SX-48 (Fig. 29・34 PL. 19)

48号墓は、n-3区にある桶植墓で、棺底には鉄、毛抜き、櫛、ガラス玉、銅錢と土師器小皿が副葬されていた。

186・187は、口径が7.8～8cm、器高が1.2～1.3cmの土師器小皿で底部は回転糸切り。188は、直径が3mm、厚さが2.5mm、孔径が5mmのガラス玉。189は、先端を欠く毛抜きで身幅は6mm、身厚は1mm。190は、鉄鉄の残片。191～195は、「寛永通寶」。196は、カリウム・鉛ガラス玉。

49号墓 SX-49 (Fig. 30・34 PL. 20)

49号墓は、m-2区にある桶植墓で、棺底には鉄、毛抜き、銅錢のほかに白磁紅皿や染付磁器碗が副葬されていた。

197は、口径が6.4cmの白磁紅皿。18世紀末。198は、口径が8.7cmの染付磁器碗で、草花文に蝶を描く。18世紀。199は、鉄鉄で復原長は13.7cm、復原刃部長は4.3cm。刃部下に「寛永通寶」2枚が鋳着している。200は、長さが9cm、幅が2.1cmの毛抜き。身幅は7mm、身厚は1mm。201～206は、鋳着した「寛永通寶」。

51号墓 SX-51 (Fig. 30・35 PL. 21)

51号墓は、p-3区にある桶植墓で、50・52号墓よりも新しく、213号陶器壺植墓よりも古い。棺底には鉄、毛抜き、櫛、煙管、銅錢と土師器小皿が副葬されていた。

207～209は土師器小皿。207は、口径が8.4cmで、底部は回転糸切り後に板目圧痕。209は、口径が8.2cm、器高が1.9cmで、見込みには落書き様の線刻がある。210は、長さが11.6cm、

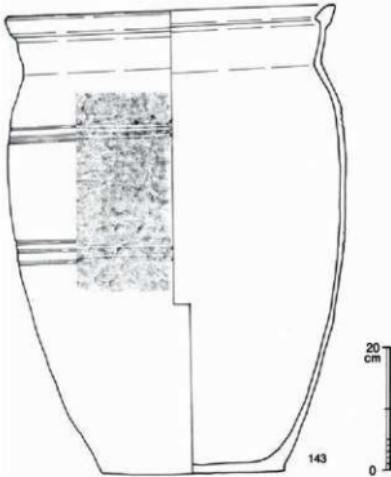


Fig.33 2号壺実測図 (1/8)

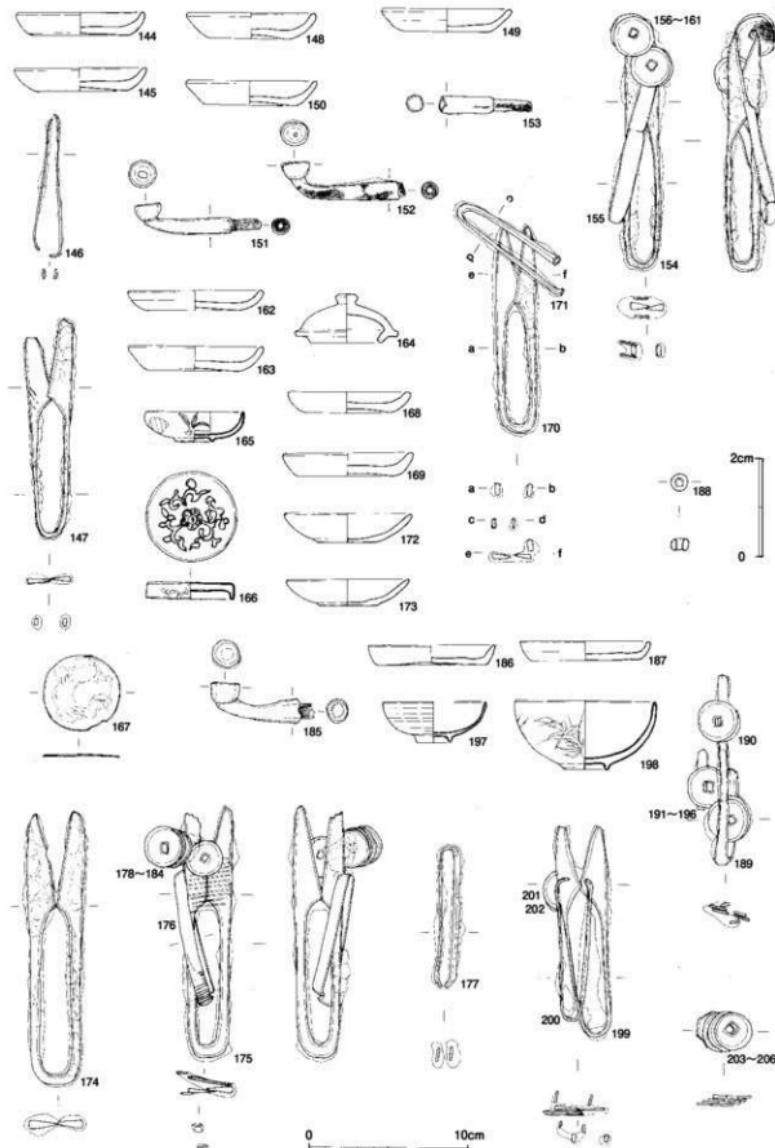


Fig.34 5・9・27・31・43・48・49号墓出土物実測図 (1/1・1/3)

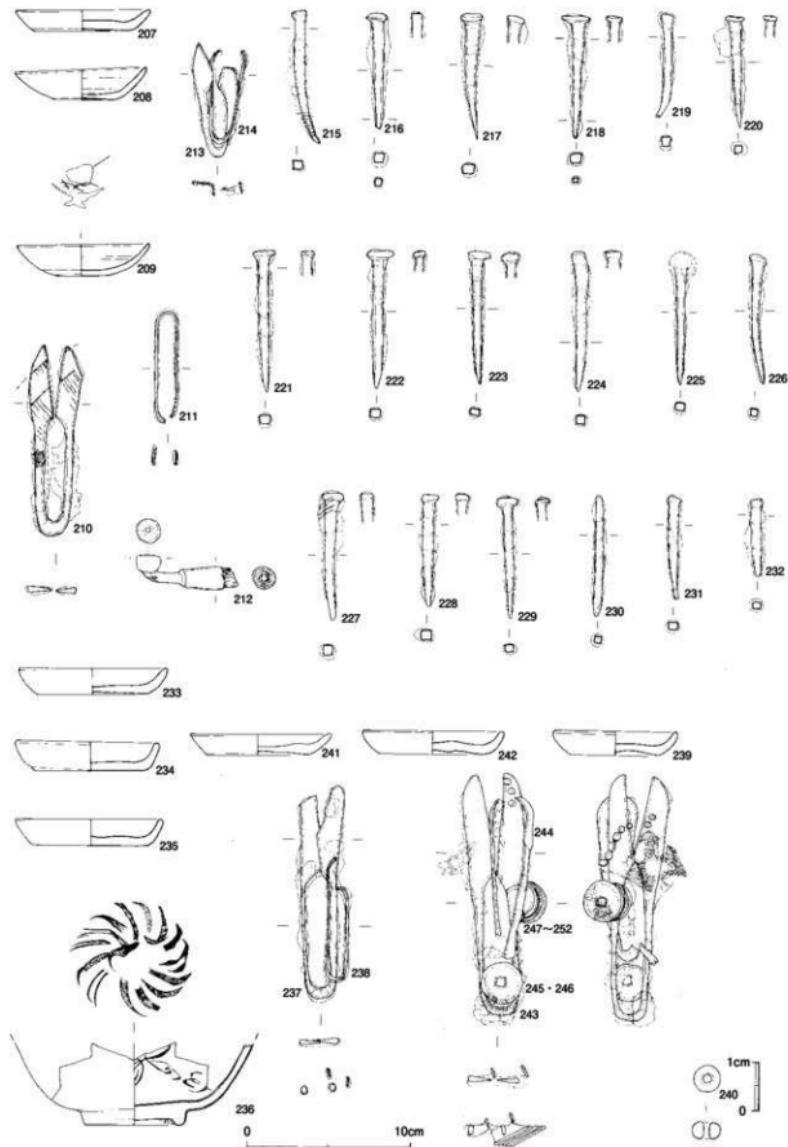


Fig.35 51・56・58・63・67号墓出土遺物実測図 (1/1・1/3)

刃部長が4.5cmの鉄鉈で、上面には櫛と布の銹着痕と布目痕がある。211は、長さが6.8cm、幅が1.7cmの毛抜き。212は、煙管の雁首で、竹製羅字が残る。

56号墓 SX-56 (Fig. 30・35 PL. 22)

56号墓は、j-2区にある箱棺墓である。箱棺は、4枚の板を方形に組み、底板側と横板の同一側縁から鉄釘を打込んでいた。棺底から鉄、毛抜き、銅錢が出土した。

213は、長さが7.9cm、刃部長が2.8cmの小型の鉄鉈。214は、長さが6cm、最大幅が2.2cmの小型の毛抜き。215～232は鉄釘。長さは6.9～8.7cmで、基部の断面は5～7mm角の方形、端部は3～4mm角の方へ長方形。

58号墓 SX-58 (Fig. 31・35 PL. 23)

58号墓は、j-2区にある桶棺墓で、棺底には鉄、毛抜き、と土師器小皿が副葬されていた。

233～235は土師器小皿で、口径は9.1～9.2cm、底径は7cm、器高は1.6～1.9cmで底部は回転系切

り。236は、高台径が6cmの龍泉窯系青磁碗で、見込みには蓮華枝文を描く。237は、鉄鉈で、刃部端を欠く。長さは13.6cm+α、身幅が2.7cm。238は長さが5.8cm、幅が1.1cmの毛抜き。身厚は1mm、身長は6mm。

63号墓 SX-63 (Fig. 31・35 PL. 24)

63号墓は、m-4区にある桶棺墓で、65号墓よりも新しい。棺底には鉄、毛抜き、銅錢のほかにガラス玉と土師器小皿が副葬されていた。

239は、口径が7.8cm、底径が5.4cm、器高が15cmの土師器小皿。240は、直径が6mm、厚さが3mm、孔径が1.5mmのカリウム・鉛ガラス玉である。

67号墓 SX-63 (Fig. 31・35 PL. 25)

67号墓は、m-6区にある桶棺墓で、棺底には鉄、毛抜き、銅錢、ガラス玉と土師器小皿のほかに2本の鉄釘が出土した。棺材に箱棺を使用した可能性がある。

241・242は、土師器小皿。243は、長さが15.1cm、刃部長が5.3cmの大型の鉄鉈。244は、長さが10cmの毛抜きである。245～252は銅錢。また、鉄の表裏面に2個のガラス玉と9個のガラス玉の銹着痕があり、ガラス玉はカリウム・鉛製。銅錢や鉄面には布目の銹着痕がある。

85号墓 SX-85 (Fig. 31・36 PL. 26)

85号墓は、m-10区にある桶棺墓で、棺底からは銅錢、櫛と土師器小皿が出土した。

253・254は、土師器小皿。口径は253が9.2cm、254が9cmで、器高は1.4cm。体部は内彌氣味に立ち上がる。胎土は良質で、少量の微細砂を含み、灰白色。255は、櫛片で、銅錢の銹着痕が残る。

92号墓 SX-92 (Fig. 32・36 PL. 27)

92号墓は、j-2区にある桶棺墓で、棺底には鉄、毛抜き、と土師器小皿が副葬されていた。

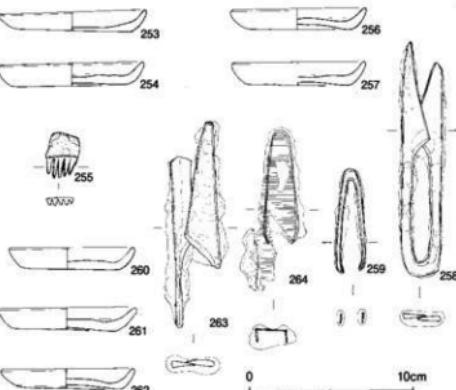


Fig.36 85・92・100号墓出土遺物実測図 (1/3)

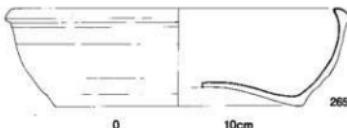


Fig.37 包含層出土遺物実測図 (1/4)

256・257は、土師器小皿である。口径は8.4cmで、256の底径は6.2cm、器高は1.3cm。257は底径が6.5cm、器高は1.5cm。上底の底部は回転糸切りで、体部は内彎気味に立ち上がる。明橙色。258は長さが14.3cm、刃部長が6.1cmの鉄鋏である。259は、長さが6.3cmの毛抜きである。

100号墓 SX-100 (Fig. 32・36 PL. 28)

100号墓は、n-8区にある桶棺墓で、墓壙のプランから箱棺墓の可能性が窺える。棺底には鉄、毛抜き、櫛、銅銭と土師器小皿が副葬されていた。

260～262は、土師器小皿である。口径は8.1～8.3cm、底径は6～6.7cm、器高は1.3～1.5cm。底部は回転糸切り。263は鉄鋏。264は毛抜きで、上面には櫛の錆着痕が付着している。

4. その他の遺構と包含層出土の遺物

265は、磁灶窯の陶器盤で、口径が28.4cm、底径が20.4cm、器高は8cm。体部は上底の底部から内彎気味に立ち上がり、内傾する口縁部は外方に摘み出す。見込みには鉄絵を施している。褐灰色の胎土に灰オリーブ釉を施釉している。

5. 小 結

第60次調査では、200基を超す桶棺や陶器堀棺墓群と中世期の大溝1条を検出した。このうち墳墓は、墓碑銘や紀年銘を刻んだ石塔が出土していないために正確な年代は決め難いが、副葬遺物からおおむね江戸時代後期から幕末と考えられるが、一部に明治期まで下るものがあるようである。また、いわゆる「六道錢」と云われる銭貨を副葬したものが94例ある。6枚を副葬したもののが圧倒的に多いが、10枚以上を副葬したものも8例あり、最も多い175号墓は19枚を差銭状にして副葬していた。反面、1枚を副葬していたものも2例ある。このうち1枚を副葬していた125号墓は「永楽錢」を、19枚を副葬していた175号墓は「元祐通寶・洪武通寶・景祐元寶・淳熙元寶」などの渡来銭を副葬していた。渡来銭の流通は当時の習俗や流通経済機構を知る上で好資料となろう。また、中世期の大溝の検出は、交易都市として拡大した市街区の西限を示唆し、周辺資料の増加に伴う都市形成過程を検討する上で好資料となろう。

No	位置	平面形	法量(cm)			主 体	副葬品	備考
			長軸	短軸	深さ			
1号墓	e-11	不整円形	120	—	90+α	美	土師器小皿片、銅銭5、鉄、毛抜、釘2、珠	石蓋
2号墓	d-11	不整円形	115	115	90+α	美		
3号墓	e-11	f円形	98	90+α	65+α	補	土師器小皿2	
4号墓	e-11	楕円形	92	76	80+α	補	土師器小皿2、銅銭6、鉄、毛抜	
5号墓	e-11	f円形	100	95	85+α	補	土師器小皿2、銅銭6(寛永通宝1)、鉄、毛抜	
6号墓	e-10	f円形	95+α	80	75+α	補	釘1	
7号墓	e-12	楕円形	110	95+α	45+α	補	土師器小皿2	
8号墓	f-10	f円形	125	115	75+α	補	キセル7	
9号墓	f-10	楕円形	140	125	75+α	補	土師器小皿3、土師器环、陶器、青磁、瓦片、銅銭6、キセル2、 鉄、毛抜、ビンの蓋	
10号墓	h-8	楕円形	85	70	80	補	土師器小皿、銅銭6、鉄、小刀	
11号墓	h-8	f円形	75+α	75+α	15+α	補	土師器小皿6	
12号墓	g-8	f円形	90	85+α	15+α	補	土師器小皿、銅銭6	
13号墓	g-7	f円形	80+α	75	65+α	美		
14号墓	i-7	楕円形	72	65	75+α	補	土師器小皿2、小刀	
15号墓	f-7	f円形	80	—	65+α	補	毛抜	
16号墓	f-6	楕円形	80	65	67+α	補	土師器小皿	
17号墓	c-9	f円形	105+α	101	55+α	補	土師器小皿2	
18号墓	f-5	f円形	90+α	80+α	25+α	補	土師器小皿、銅銭6(永楽通宝1)「背文字(文)」	
19号墓	h-6	f円形	80+α	70	45+α	補	土師器小皿、銅銭5(寛永通宝4)、鉄	
20号墓	i-5	楕円形	130	112	75+α	鉄		
21号墓	h-5	f円形	95+α	90+α	42+α	補	土師器小皿2、銅銭4(寛永通宝1)	
22号墓	c-10	f円形	120+α	95	35+α	補	土師器小皿	
23号墓	d-7	f円形	105+α	—	58+α	補	土師器小皿2	
24号墓	c-6	楕円形	130	100	135	補	土師器小皿	
25号墓	b-7	f円形	112	108	107	美	毛抜、釘2	石蓋

Tab.3 近世墓一覧表1

26号墓	b-7	円形	100+ α	96	亮	銅錢4(寛永通宝2)、鍊、毛抜、櫛	石蓋
27号墓	d-5	円形	115+ α	96	15+ α	桶	土師器小皿2、組器蓋、染付蓋、赤绘紅皿、銅製圓盤状
28号墓	c-4	不整円形	150+ α	130+ α	50+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝1)、鍊
29号墓	e-6	格円形	115+ α	110	40+ α	桶	土師器小皿、銅錢3(寛永通宝2)
30号墓	e-5	円形	97	90+ α	25+ α	桶	土師器小皿3、陶器
31号墓	e-5	円形	90+ α	88	65+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6、鍊、毛抜
32号墓	e-5	格円形	140+ α	105+ α	30+ α	桶	土師器小皿2
33号墓	e-4	円形	91	90	40+ α	桶	土師器小皿片、亮、陶器、小刀
34号墓	e-4	円形	85	67	53+ α	桶	土師器小皿2
35号墓	d-2	円形	120+ α	85	25+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝2)
36号墓	e-2	不整円形	122	118	53+ α	桶	土師器小皿3
37号墓	g-4	格円形	85+ α	68+ α	55+ α	桶	鍊
38号墓	g-3	円形	82	75+ α	23+ α	桶	土師器小皿、土師器小皿片
39号墓	g-3	格円形	112	95	55+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6、不明
40号墓	d-11	円形	115	115	75+ α	桶	土師器小皿2、銅錢1(寛永通宝2)、鍊
41号墓	n-2	格円形	150	120	85+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、青磁、キセル
42号墓	h-3	円形	106	102	40+ α	桶	土師器小皿、土師器小皿片、磁器皿、銅錢37以上(洪武通宝8)、板状銅製品、棺材
43号墓	n-3	格円形	100	80	50+ α	桶	土師器小皿2、銅錢7、キセル、鍊2、毛抜2、櫛
44号墓	j-4	円形	108	100	73+ α	桶	
45号墓	h-4	円形	87	80	80+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、青磁、銅錢5、鍊、釦
46号墓	b-3	円形	115	112	35+ α	桶	小杯
47号墓	j-4	円形	85	60+ α	25+ α	桶	土師器小皿2、土師器坏片
48号墓	n-3	円形	90	88	70+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、青磁、陶器、銅錢6、鍊、毛抜、櫛、珠
49号墓	n-1	円形	107	102	75+ α	桶	土師器小皿片、土師器坏、碗、須彌器坏、銅錢6、鍊、毛抜
50号墓	o-3	円形	100	85+ α	45+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6、キセル、釦2、棺材片
51号墓	o-3	円形	100	85	55+ α	桶	土師器小皿3、土師器小皿片、陶器、銅錢6、キセル、不明銀製品、鍊、毛抜、櫛
52号墓	o-3	格円形	100+ α	75	50+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝3)、鍊
53号墓	n-3	格円形	113	103	96+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、青磁、陶器、銅錢6(寛永通宝3)、鍊、釦、櫛
54号墓	n-3	円形	95	90	45+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、銅錢12、鍊、毛抜、櫛
55号墓	n-3	格円形	100	75	70+ α	桶	土師器小皿3
56号墓	l-2	円形	80+ α	75+ α	40+ α	桶	銅錢6、鍊、毛抜、釦18、不明2
57号墓	l-2	円形	90	83	75+ α	桶	土師器小皿2、銅錢5、鍊、毛抜
58号墓	j-1	扇丸形	105	80+ α	47+ α	桶	土師器小皿3、土師器小皿片、陶器、青磁、鍊、毛抜、
59号墓	o-4	格円形	100	90	95+ α	桶	陶器、白磁、銅錢6(背文字(文))、鍊、毛抜、珠7、不明
60号墓	o-4	格円形	88	72	53+ α	桶	青磁、銅錢1、鍊、毛抜
61号墓	o-4	格円形	75	60	50+ α	桶	銅錢6、(背文字(文))
62号墓	p-4	円形	87	85+ α	55+ α	桶	土師器小皿2、土師器坏、銅錢6(寛永通宝1)、キセル
63号墓	n-4	格円形	112	95	65+ α	桶	土師器小皿、銅錢6、鍊、毛抜、珠2
64号墓	m-5	円形	100	93	78+ α	桶	銅錢3(寛永通宝)、2)、鍊、毛抜、櫛、珠、棺材片
65号墓	n-4	円形	110	105	60+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6(背文字(文))、鍊、毛抜、櫛
66号墓	n-6	不整円形	110	102	35+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、陶器、銅錢10 (背文字(文))、鍊、小珠
67号墓	n-6	扇丸形	102	85	60+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6、鍊、毛抜、釦2、珠2
68号墓	o-5	円形	140	135	85+ α	桶	土師器小皿片、須彌器、銅錢6、鍊、毛抜、鉄滓、鹽(龍甲)
70号墓	p-5	円形	95	95	45+ α	桶	土師器小皿、土師器小皿片、環、陶器、青磁、銅錢6(寛永通宝)、鍊、釦、鉄滓
71号墓	p-5	円形	116	102	82+ α	桶	土師器小皿片、青磁、陶器、磁器、軒丸瓦
72号墓	o-4	円形	114	107	78+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、銅錢6(寛永通宝)「背文字(文)」、鍊、毛抜、櫛
73号墓	i-9	格円形	117	91	70+ α	桶	土師器小皿2、銅錢7(寛永通宝)、鍊
74号墓	j-9	円形	107	103	102+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、陶器、青磁、銅錢10、鍊、毛抜
75号墓	j-8	円形	107	107	70+ α	桶	土師器小皿3
76号墓						桶	
77号墓	l-7	格円形	103	95	55+ α	桶	土師器小皿、陶器片、陶器、銅錢2、鍊、毛抜
78号墓	k-7	格円形	96	83	63+ α	桶	土師器小皿3、环、陶器、磁器、青磁、銅錢6、鍊
79号墓	j-10	円形	105	100	87+ α	桶	土師器小皿2、土師器坏、銅錢6、鍊、毛抜、珠2
80号墓	i-7	格円形	101	92	30+ α	桶	土師器小皿4、青磁片、銅錢12(寛永通宝3)、鍊2、毛抜
81号墓	n-7	円形	85	83	20+ α	桶	土師器小皿3、土師器坏2、土師器小皿片、陶器、青磁、滑石製右銅片、銅錢12、鍊、毛抜、釦、櫛
82号墓	k-9	円形	90	85	40+ α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、青磁、銅錢6、鍊、毛抜
83号墓	i-9	円形	115	113	40+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝)、キセル、鍊、櫛
84号墓	n-10	格円形	110	91	115+ α	桶	土師器小皿2、銅錢5、櫛1
85号墓	n-10	円形	110+ α	105+ α	85+ α	桶	土師器小皿2、銅錢6、櫛

Tab.4 近世墓一覧表2

86号墓	n-10	格円形	101	70+α	30+α	桶	銅錢6(寛永通宝)、鉄、毛抜	
87号墓	n-10	格円形	96	82	45+α	桶	土師器小皿、环、陶器、銅錢4、釘3	楠板道存
88号墓	1-10	円形	82	76	73+α	桶	土師器小皿2	
89号墓	1-8	格円形	101	90	65+α	桶	土師器小皿3、土師器小皿片、須恵器片、牛セラ	
90号墓	j-5	兩丸方形	83	70+α	40+α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、瓦片、陶器、銅錢6、鉄	
91号墓						土師器环、土師器小皿片、青磁片、白磁片、陶器片、釘4、小刀、鉄、津洋		
92号墓	i-2	円形	88	88	65+α	桶	土師器小皿2、土師器小皿片、白磁、青磁、銅錢6、鉄、毛抜	
93号墓						土師器小皿2、土師器小皿片、白磁、青磁、		
94号墓	i-4	円形	80	77	50+α	桶	銅錢6(寛永通宝)、鉄、毛抜	
95号墓	i-5	円形	100	95+α	40+α	桶	土師器小皿2)、土師器小皿片、青磁、陶器、銅錢(6)(寛永通宝)、鉄(2)	
96号墓								
97号墓	n-4	円形	75	75	55+α		銅錢6(寛永通宝2)	
98号墓	b-2	円形	78	72	75+α	桶	土師器小皿、銅錢(6)(寛永通宝)、鉄、毛抜	
98号墓	b-4	円形	107	100	70+α	桶		
99号墓	n-8	円形	83	72	57+α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝2)、鉄	
100号墓	n-8	兩丸方形	120	90	55+α	桶	土師器小皿3、銅錢6、鉄、毛抜、撚	
101号墓	n-9	円形	98	95	60+α	桶	土師器小皿2、銅錢6(寛永通宝)	
102号墓	k-8	格円形	108	87	42+α	桶	銅錢6(背文字文)、鉄、毛抜	
103号墓	i-10	円形	120	116	80+α	桶	銅錢6(寛永通宝2)、鉄、毛抜	
104号墓						土師器小皿、土師器小皿片、青磁、陶器		
105号墓						土師器小皿、青磁、銅錢4、鉄、毛抜、釘		
106号墓						土師器环		
107号墓						土師器小皿2、土師器小皿片、环、青磁、陶器、銅錢10(寛永通宝2)、鉄		
108号墓						銅錢5(寛永通宝2)「背文字(文)」、鉄、釘4		
109号墓						土師器小皿、土師器环、青磁、陶器		
110号墓						土師器小皿、土師器环、須恵器、陶器、白磁、樂		
111号墓						土師器小皿、土師器环、青磁、白磁、陶器、銅延、鉄、釘		
112号墓						土師器小皿4、青磁、陶器(瀬)、鉄、不明1		
113号墓						土師器小皿片、陶器、白磁、龍泉窑青磁		
114号墓						土師器小皿2、牛セラ		
115号墓						土師器小皿片、环、土師器环、青磁、銅錢9(寛永通宝)、毛抜、釘、刀子		
116号墓						土師器小皿、环片、陶器环、滑石製石鍋片		
117号墓						土師器小皿片、釘		
118号墓						土師器小皿片、土師器环、青磁、白磁、釘3		
119号墓						土師器小皿、环、瓦質、青磁、磁器		
120号墓	円形	100	90	85+α		土師器小皿、环、青磁、陶器、須恵器、瓦質滑石、刀子		
121号墓						土師器小皿2、青磁、陶器、鉄、牽		
122号墓						土師器小皿、土師器环、陶器、磁器、青磁、釘2、刀子		
123号墓						土師器小皿		
124号墓						土師器小皿、陶器、瓦質鉢、毛抜		
125号墓						土師器小皿、陶器、銅錢10(水堀通宝)		
126号墓						土師器小皿、环、青磁、白磁、陶器片		
127号墓						銅錢10(寛永通宝2)、		
128号墓						土師器小皿片、青磁、陶器鉢		
129号墓						土師器小皿2、陶器		
130号墓						土師器小皿、青磁碗、毛抜、刀子		
131号墓						鉄		
132号墓						土師器小皿、青磁、銅錢7(寛永通宝1)		
133号墓						土師器环、青磁、陶器2、瓦、瓦質鉢、銅錢6、鉄、毛抜、釘、鑒		
134号墓						土師器小皿2、土師器环、紅皿、陶器、环、青磁		
135号墓						土師器小皿、陶器、土鈞		
136号墓						土師器小皿、土師器环、陶器、青磁、磁器、須恵器、滑石		
137号墓						土師器小皿3、青磁、白磁、陶器鉢		
138号墓						土師器小皿2、キセラ、釘		
139号墓						土師器环、釘		
140号墓						土師器小皿片、青磁		
141号墓						土師器小皿2、青磁、銅錢15		
142号墓						土師器小皿2、白磁、青磁、陶器、瓦質鉢、釘		
143号墓						土師器小皿、土師器小皿片、土師器环、土師器鉢、青磁、陶器、鉄、毛抜、撚		
144号墓						土師器小皿、环、青磁、瓦質土器、釘2		
145号墓						土師器小皿片、土師器环、磁器、青磁碗底		
146号墓						土師器环、青磁、白磁、毛抜		

Tab.5 近世墓一覽表3

147号墓				桶	土師器小皿、紅磁、陶器、瓦片、龍泉窯青磁、銅錢6、鍍、毛拔	銅錢に布目付着	
148号墓				甕	土師器小皿4、銅錢		
149号墓				桶	磁器、白磁		
150号墓				桶	土師器小皿2、土師器坏、磁器、青磁、陶器、人形片、銅錢2		
151号墓				桶	土師器坏		
152号墓				桶	土師器小皿		
153号墓				桶	土師器小皿片、陶器、摺鉢、中國青磁		
154号墓				桶	土師器小皿2、土師器坏、須惠器坏、陶器、青磁		
155号墓				桶	土師器小皿片、土鈐2、須惠器坏、青磁、白磁、肥前磁器、陶器、鉢		
156号墓				陶器片(青磁)			
157号墓				桶	土師器(高台付組)、陶器、青磁、瓦質、銅錢5(寛永通宝1)、鍍、釘3、不明2		
158号墓				桶	土師器小皿、土師器坏、土鍊2、摺鉢、青磁、陶器、灯明皿、毛拔		
159号墓				桶	銅錢6(寛永通宝2)		
160号墓				桶	土師器小皿片、摺鉢(瓦)、銅錢4、		
161号墓				甕	土師器小皿		
162号墓				桶	土師器小皿片		
163号墓				甕	土師器小皿片、土師器坏片、青磁片		
164号墓				甕	土師器小皿2、土師器坏、青磁片、銅錢(寛永通宝)	差し戻	
165号墓				桶	土師器小皿片、瓦		
166号墓				桶	土師器小皿、土師器坏、青磁、白磁、磁器、朝鮮磁器、刀子		
167号墓				桶	土師器小皿		
168号墓				土師器小皿、青磁、白磁、陶器、瓦質片			
169号墓				桶	青磁片、刀子		
170号墓				桶	土師器小皿、土師器坏、青磁片、陶器碗		
171号墓				桶	陶器、白磁、青磁片		
172号墓				桶	人形(磁器)		
173号墓				桶	青磁碗		
174号墓				桶	土師器小皿、坏、鉢		
175号墓				桶	銅錢19(元祐通宝1、洪武通宝1、景祐元宝1、淳熙元宝1)	銅錢に繕付着	
176号墓				甕	土師器小皿2、銅錢2(寛永通宝1)		
177号墓				甕	土師器小皿2、陶器片、銅錢3(背文字(文))		
178号墓				甕	土師器小皿2、陶器片、銅錢6(寛永通宝3)、撫		
179号墓				甕	土師器小皿、銅錢6(寛永通宝2)		
180号墓				甕	土師器小皿2、陶器、鉢		
181号墓				甕			
182号墓				甕	土師器小皿、銅錢7(寛永通宝2)、キセル、鍍、鉢		
183号墓				甕	土師器小皿、キセル		
184号墓				甕	鍍、毛拔		
185号墓				甕	土師器小皿、土師器小皿片、陶器		
186号墓				甕	人形(陶器)		
187号墓				甕	土師器小皿、銅錢5、		
188号墓				甕			
189号墓				甕	土師器小皿2、青磁片		
190号墓				甕	土師器小皿2、銅錢6、不明銅製品		
191号墓				甕	土師器小皿2、土師器小皿片		
192号墓				甕	土師器小皿		
193号墓				甕	土師器小皿2、銅錢(寛永通宝4)、櫛		
194号墓				甕	土師器小皿2、銅錢5(寛永通宝2)、		
195号墓				甕	土師器小皿2、土師器坏片、銅錢、キセル、釘2		
196号墓				甕	土師器小皿2、土師器小皿片、磁器2		
197号墓				桶	土師器小皿		
198号墓				甕	土師器小皿2、銅錢2		
199号墓				甕	土師器小皿3、銅錢6		
200号墓				甕	土師器小皿2、銅錢4(寛永通宝1)		
201号墓				甕	土師器小皿2、土師器坏、青磁皿、銅錢2、キセル		
202号墓				甕			
203号墓				甕	土師器小皿3、石、銅錢6、キセル		
204号墓				甕	土師器小皿3、銅錢6、キセル、鍍		
205号墓				土師器小皿片、陶器、青磁、磁器、摺鉢、瓦質鉢			
206号墓				土師器坏			
211号墓	g.9 円形	80	80	80+α	甕	土師器小皿片、銅錢「背文字(文)」、鉢	
212号墓	j.-3 楕円形	110	92	65+α	甕	鍍	
213号墓	o.-3				甕	土師器小皿	
214号墓	j.-9				甕	土師器小皿	
215号墓					土師器小皿		
216号墓					土師器小皿		
	円形	65	60	35+α	桶		

Tab.6 近世墓一覧表4



(1) 第60次調査区南側全景（北西から）



(2) 第60次調査区北側全景（北西から）



(1) 69号溝（南から）



(2) 69号溝（北西から）



(1) 1・2号墓 (南から)



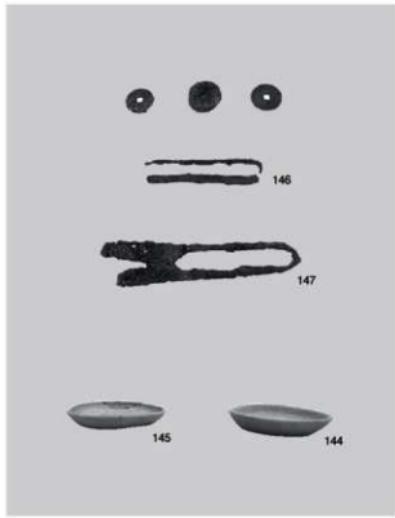
(2) 1・2号墓断面 (南から)



(3) 2号墓出土遺物 (縮尺不同)



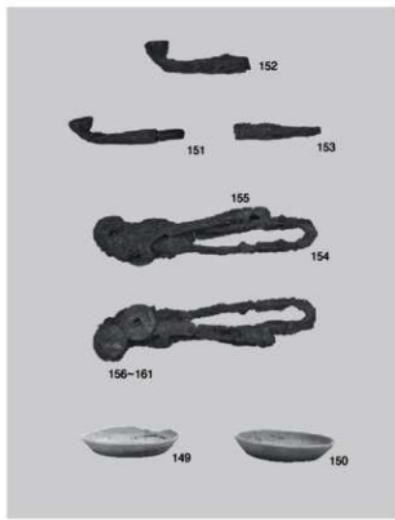
(1) 5号墓 (南から)



(2) 5号墓出土遺物 (縮尺不同)



(1) 9号墓（東から）



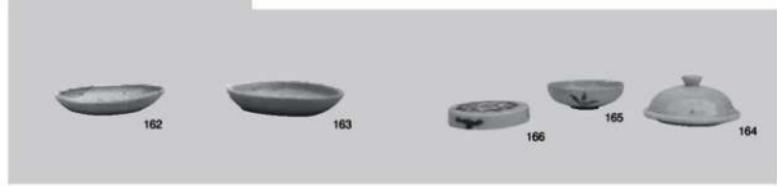
(2) 9号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 27号墓（南から）



(2) 27号墓遺物出土状況（南から）



(3) 27号墓出土遺物（縮尺不同）

167

162

163

166

165

164



(1) 31号墓（南から）



(2) 31号墓遺物出土状況（南東から）



(3) 31号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 43号墓（南から）



(2) 43号墓遺物出土状況（南東から）



(3) 43号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 48号墓（北から）



(2) 48号墓出土物出土状況（北から）



(3) 48号墓出土物（縮尺不同）



(1) 49号墓（北から）



(2) 49号墓遺物出土状況（東から）



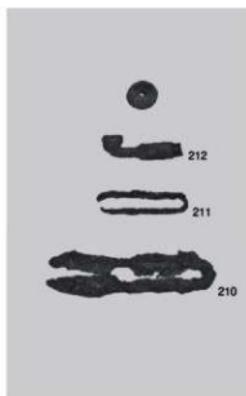
(3) 49号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 51号墓（東から）



(2) 51号墓遺物出土状況（東から）



(3) 51号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 56号墓（南から）



(2) 56号墓遺物出土状況（西から）



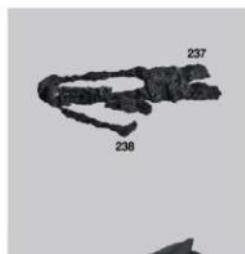
(3) 56号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 58号墓（東から）



(2) 58号墓遺物出土状況（北から）



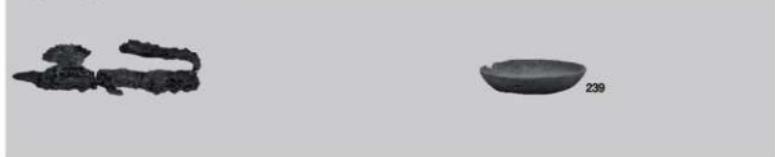
(3) 58号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 63号墓（北から）



(2) 63号墓遺物出土状況（北から）



(3) 63号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 67号墓（東から）



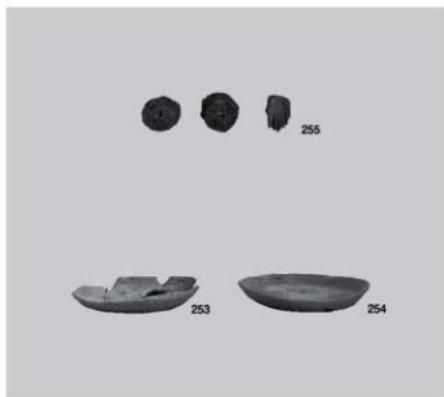
(2) 67号墓遺物出土状況（南から）



(3) 67号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 85号墓（南から）



(2) 85号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 92号墓（南から）



(2) 92号墓遺物出土状況（北から）



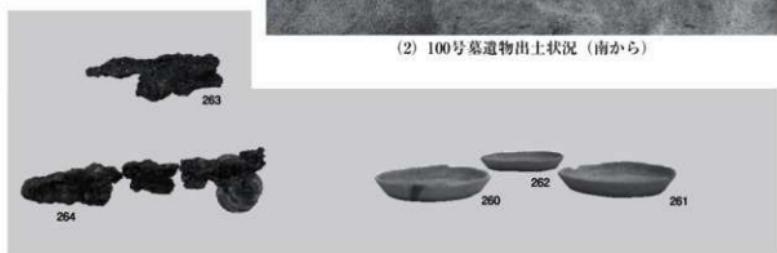
(3) 92号墓出土遺物（縮尺不同）



(1) 100号墓（北から）



(2) 100号墓遺物出土状況（南から）



(3) 100号墓出土遺物（縮尺不同）

報告書抄録

ふりがな	はこざき 44							
書名	箱崎 44							
副書名	箱崎遺跡第50・60次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1163集							
編著者名	小林義彦							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2012年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町 村	遺跡 番号					
はこざきいせき 箱崎遺跡 だい50じこうさ 第50次調査	ふくおかしひがしく 福岡市東区 まいだし5ちょうめ 馬出5丁目461番1	40130	2639	33°36'51"	130°25'19"	20050512 ～ 20050604	69	記録保存 調査
はこざきいせき 箱崎遺跡 だい60じこうさ 第60次調査	ふくおかしひがしく 福岡市東区 まいだし5ちょうめ 馬出5丁目510番地	40130	2639	33°36'51"	130°25'13"	20080121 ～ 20080327	630	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
箱崎遺跡 第50次調査	集落	中世	掘立柱建物・井戸・ 土坑・溝	土師器・青白磁・瓦器・ 石製品・銅錢		中世前半の集落遺 構		
箱崎遺跡 第60次調査	集落・墓地	中世・近世	溝・墳墓	土師器・鉄製品・陶磁 器・木製品		中世の集落遺構と 近世の共同墓地		
要約	<p>箱崎遺跡は、古墳時代から中世の集落跡である。殊に、古代末から中世にかけては、宮崎宮を中心とする国際交易都市として栄えたところである。古代末から中世期には都市の拡大に伴って海側の古砂丘の西側に市街区が形成していく。第50次調査区は、古砂丘西側の緩斜面上に立地し、繰り返して掘り込まれた井戸や掘立柱建物や土師器の廃棄土壙は、都市機能の拡大する12世紀代の箱崎遺跡の様相を物語っている。</p> <p>また、第60次調査区は第50次調査区よりも更に海寄りの西側にあり、箱崎遺跡の西限に位置しており、遺構は稀薄になる。江戸時代後期には共同墓地となる。墓地は、桶棺墓と陶器壺棺墓からなり、棺底には鉄や毛抜き、煙管、櫛や土師器、陶磁器のほかに六道鏡と云われる銅鏡を副葬しており、該期の習俗や生死觀を窺い知ることが出来る。</p>							

箱崎 44

- 箱崎遺跡第50・60次調査報告 -

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1163集

2012年(平成24年)3月16日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 久野印刷株式会社
福岡市博多区奈良屋町3番1号

